

東京歯科衛生専門学校

2021 年度 教授要綱

1 年前期 講義

＜基礎分野＞ 科目名 生物学 講師名 李 昌一

単位数 2

授業概要	歯科衛生士業務を行う為に必要な生命医学に関わる生物に必要な基礎知識を理解し、修得する。
教科書	「最新歯科衛生士教本 生物学（医歯薬出版）」
副教材	
評価方法	

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. 5 / 6	生命とは何か 生命科学とは？	生命、生命科学の概論を理解し、説明できる	
2. 5 / 13	細胞をつくる物質	細胞をつくる物質の特徴、理解し、説明できる	
3. 5 / 20	生命の単位Ⅰ 細胞 細胞内器官	細胞を理解し、説明できる 細胞内小器官理解し、説明できる	
4. 5 / 27	生命の単位Ⅱ 細胞 細胞内器官	細胞を理解し、説明できる 細胞内小器官理解し、説明できる	
5. 6 / 3	細胞の一生 細胞周期 単細胞生物と多細胞生物	細胞周期を理解し、説明できる 単細胞生物と多細胞生物を理解し、説明できる	
6. 6 / 10	ヒトの組織	ヒトの組織組織の特徴とはたらき理解し、説明できる	
7. 6 / 24	ヒトの器官Ⅰ 消化器官系 循環器官系	消化器官系に属する器官のはたらきを理解し、説明できる 循環器官系に属する器官のはたらきを理解し、説明できる	
8. 6 / 24	ヒトの器官Ⅱ 呼吸器官系 泌尿器官系	呼吸器官系に属する器官のはたらきを理解し、説明できる 泌尿器官系に属する器官のはたらきを理解し、説明できる	
9. 7 / 1	生殖の方法 配偶子形成 減数分裂	生殖の種類と特徴を理解し、説明できる 配偶子を理解し、説明できる 減数分裂を理解し、説明できる	
10. 7 / 8	遺伝とその法則	遺伝の法則を理解し、説明できる 遺伝子の本体を理解し、説明できる	
11. 7 / 15	生命をつくる仕組み 遺伝子を働かせる仕組み	遺伝子を働かせる仕組みを理解し、説明できる	
12. 7 / 15	発生の過程/発生の仕組み	受精の仕組みを理解し、説明できる	
13. 9 / 2	刺激の受容と反応 感覚器 神経	感覚器の構造を理解し、説明できる 神経系の分類と神経細胞（ニューロン）と興奮の伝導・伝達について理解し、説明できる	

14. 9 / 8	内部環境を保つ仕組みⅠ 体液 ホメオスタシス ホルモン 自律神経	ホメオスタシスを理解し、説明できる 体液を理解し、説明できる 血球を理解し、説明できる ホルモンと内分泌腺を理解し、説明できる 自律神経系と内分泌腺を理解し、説明できる	
15. 9 / 8	内部環境を保つ仕組みⅡ 生体防御 炎症 免疫	炎症を理解し、説明できる 免疫を理解し、説明できる	

1 年前期 講義

＜基礎分野＞ 科目名 化学の基礎 講師名 竹村 朝子

単位数 2

授業概要	歯科衛生士に必要な化学の基本を習得する。 予習として、教科書を読み、用語をマーカーでチェックしておくこと。 復習として、到達目標に達すること。教科書の練習問題、章末問題を解くこと。 化学は、歯科衛生士が用いる薬品や歯科材料の特徴を理解するために必須の科目です。復習に時間をとり、教科書の問題を必ず解くこと。講義は各人が予習と復習をきちんと行っている前提で行うので、その心づもりで講義に臨んでください。わからなかったことは次の講義の前に解決するように。 ※試験には計算機能のみの計算機の持ち込みを許可するので、前もって使い方に慣れておくこと。 ※第7回にまとめ・復習の回を用意しましたが、6回分の講義内容を駆け足で確認する回で、わからないことをもう一度丁寧に説明する回ではありません。もう一度講義を聞けると安心せず、第6回までの内容をきちんと自分のものにした上で第7回を受講してください。
教科書	「最新歯科衛生士教本 化学」
副教材	
評価方法	期末試験・夏休み宿題 そのほかに課題を設ける場合は、課題の評価を試験点数に加算する場合もある。

授業計画

- ・全回、計算機能のみの電卓を持参すること。
- ・項目は教科書のタイトルから。() 内の数字は教科書のページ数を示す。

夏休みの宿題（記入用のプリントを用意する）

- ・歯科衛生士が使う薬品の表を作る
- ・有機化合物の特徴をまとめる

回・月/日	項目	到達目標	備考
1. 4/16	物質の分類 (2～4)	物質を分類できる 同素体とは何か、例を挙げて説明できる	電卓
2. 4/23	物質の構造 (4～7)	原子とは何か説明できる 物質をつくる原子のあり方について説明できる 分子とは何か説明できる	電卓
3. 4/30	原子の電子配置 (7～11)	原子の構造を理解し、説明できる イオンとは何か、イオンの種類について説明できる	電卓
4. 5/7	元素の周期律 (11～14)	元素とは何か理解し、元素の周期表について説明できる 周期表に基づいた元素の性質について説明できる	電卓
5. 5/14	物質質量 (14～16)	原子量、分子量、式量が何か説明できる 物質質量を計算できる モルとは何か、説明できる	電卓
6. 5/21	化学結合 (16～23)	化学結合の種類について、例を挙げて説明できる	電卓
7. 5/28	1～6回までのまとめ・復習	第1～6回までの到達目標に達していることを確認する	
8. 6/4	気体について知ろう (26～31)	気体とは何か、分子の姿から説明できる 気体の性質について説明できる 計算ができる	電卓

9. 6/11	空気は何から 気体を使う (31~39)	気体の具体的な例を挙げられる それぞれの気体について特徴や性質を説明できる	電卓
10. 6/18	物質が水に溶けるとは 水溶液の濃さの表し方 (42~53)	水溶液とは何か、原子や分子の姿から説明できる 濃度を計算できる 水溶液を希釈することができる	電卓
11. 6/25	希薄水溶液の示す不思議な 性質 身のまわりにはコロイドが いっぱい (53~67)	希薄水溶液の特徴的な性質を挙げられる コロイドとは何か、水溶液と違う点を挙げ、コロ イドを説明できる コロイドを分類できる	電卓
12. 7/ 2	酸とアルカリの水溶液 (63~76)	酸とアルカリとは何か、説明できる 酸とアルカリの強弱、pH について説明できる 中和反応を理解し、中和反応の化学式を作ること ができる	電卓
13. 7/ 9	酸化とは、還元とは (80~85) 化学反応では原子の組換え が起こっている (88~95)	酸化数について説明できる 酸化数の変化と酸化、還元について関連づけるこ とができる 金属のイオン化傾向とは何か、説明できる 電池について、説明できる 化学反応とは何か、説明できる 化学反応式をつくることことができる	電卓
14. 7/16	有機化合物とは何だろう (98~127)	有機化合物とは何か、説明できる いくつかの有機化合物について、歯科の現場での 使用例をあげることができる	電卓
15. 9/ 3	ヒトをつくっているものは 何だろう (130~163)	ヒトをつくる物質にどのようなものがあるか、説明 できる 各物質について、ヒトのからだでどんなはたらき をしているか、説明できる	電卓

1 年前期 演習

＜基礎分野＞ 科目名 情報コミュニケーションⅠ 講師名 大竹正美 単位数 2

授業概要	情報および情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して、情報を適切に取捨選択し、効果的に表現する力とコミュニケーション能力を養う。 課題作品は校内ネットワークサーバーの各自フォルダ内と USB メモリに保存する。 ▶USB メモリは各自で用意し、毎回持参する。
教科書	
副教材	配布プリント
評価方法	実習（7割） 筆記試験（3割）

授業計画

回・月/日	項目	到達目標	備考
1. 4/19	授業概要説明、ネットワーク利用、検索	本校のネットワーク環境を理解し、適切なファイル操作と情報の検索・収集ができる。	TAKI USB xEJ
2. 4/26	プレゼンテーション (企画立案)	プレゼンテーションについて学び、自己紹介の構成と流れを考え、企画立案することができる。	TAKI USB xEJ
3. 5/10	プレゼンテーション (情報収集)	著作権について正しく理解した上で、必要な情報をネットから収集することができる。	TAKI USB xEJ
4. 5/17	プレゼンテーション (資料作成)	プレゼンソフト (Power Point) を活用し、プレゼンテーションの資料 (発表資料) を作成できる。	TAKI USB xEJ
5. 5/24	プレゼンテーション (資料作成)	効果的な表現力を身につけ、視覚的にわかりやすい発表資料を作成することができる。	TAKI USB xEJ
6. 5/31	プレゼンテーション (リハーサル)	リハーサルを行い、発表内容と表現力を高め、自信を持って本番の発表に臨むことができる。	TAKI USB xEJ
7. 6/ 7	プレゼンテーション (発表)	自己紹介をプレゼンテーションの形で発表し、自己・相互評価することができる。(次回に続く)	TAKI USB xEJ
8. 6/ 7	プレゼンテーション (発表・まとめ)	発表後に振り返りを行い、次回に向けた改善点を見つけることができる。	TAKI USB xEJ
9. 6/21	データ処理 (基礎)	表計算ソフト (Excel) を活用し、数値情報の取り扱いについて学び、基本的なことが説明できる。	TAKI USB xEJ
10. 6/28	レポート作成 (作成)	文書作成ソフト (Word) を活用し、「総合研究」のレポートを作成するスキルを身につける。	TAKI USB xEJ
11. 7/ 5	データ処理 (表・グラフ作成)	歯科関連の数値データを用いて、表とグラフを作成し、考察することができる。	TAKI USB xEJ
12. 7/12	データ処理 (発表)	作成したグラフを使ってプレゼンテーションを行い、知識を共有することができる。	TAKI USB xEJ
13. 7/12	レポート作成 (レイアウト)	スキルを活かしてレポートのレイアウトを整え、読みやすいレポートを作成することができる。	TAKI USB xEJ
14. 9/ 6	レポート作成 (完成)	「総合研究」のレポートを提出できるよう、完成させることができる。	TAKI USB xEJ
15. 9/13	情報モラル	情報モラルについて様々な視点から考えを深めることができる。	TAKI USB xEJ

1 年後期 演習

＜基礎分野＞ 科目名 情報コミュニケーションⅡ 講師名 大竹正美 単位数 1

授業概要	情報コミュニケーションⅠの発展学習として、コンピュータ・ネットワークの活用を通して IT スキルと表現力、コミュニケーション能力を高め、情報モラルについての理解を深める。また、他の教科や研究発表等でも応用できる IT スキルを身に付け、将来実務でも活用できる力をつけるようにする。 課題作品は校内ネットワークサーバーの各自フォルダ内と USB メモリに保存する。 ▶USB メモリは各自で用意し、毎回持参
教科書	
副教材	配布プリント
評価方法	実習（7割） 筆記試験（3割）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	情報モラル （現状把握）	社会の情報化や情報技術の進展が社会に果たす役割と及ぼす影響について理解し、深刻化するネットトラブルの現状について把握することができる。	TAKI USB メモリ
2. /	情報モラル （事例紹介）	情報モラルの各テーマから 1 つテーマを選び、情報収集して具体的事例を探し、現状の問題を明らかにすることができる。	TAKI USB メモリ
3. /	情報モラル （問題解決）	問題解決手法を理解したうえで、問題解決（具体的事例を挙げて問題点を明確化し、その原因を究明して対策を講じる）にあたることができる。	TAKI USB メモリ
4. /	情報モラル （レポート作成）	レポートの作成を通して、情報モラルの重要性を認識し、情報モラルに関わる問題を自分の問題として捉え、解決を図っていくことができる。	TAKI USB メモリ
5. /	ポスター作成 （企画立案）	ポスターに関する基礎知識を身につけたうえで、対象者に応じた歯科保健指導用ポスターの原案を企画立案することができる。	TAKI USB メモリ
6. /	ポスター作成 （ポスター作成）	アプリケーションソフトを活用して、視覚的にわかりやすい歯科保健指導用のポスターを作成することができる。	TAKI USB メモリ
7. /	ポスター作成 （レポート作成）	歯科保健指導用のポスターを完成させ、ポスターで表現したことが伝わるようなレポートを作成することができる。	TAKI USB メモリ
8. /	総まとめ（45分授業）	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認するとともに、各自がこれまで授業で作成した全課題作品を見直し、完成度を高める。	TAKI USB メモリ

1 年後期 講義

＜基礎分野＞ 科目名 コミュニケーション能力Ⅰ 講師名 池田雅彦 単位数 1

授業概要	人間関係をよりよくするために、個々が持ち得る「関係力」を頭・こころ・体で理解し、最新のトレーニング手法を取り入れ、「関係力」向上を目的とする。
教科書	なし
副教材	プリント・映像資料など
評価方法	授業レポートおよび期末試験（筆記試験）で評価する。

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	コミュニケーションについての理解	コミュニケーションの基本・雑談の必要性について気づくことができる。	
2. /	自分の対人関係の在り方に気づく	対人関係力のチェック・分析をして自分に気づくことができる。	
3. /	コミュニケーション分析 (1)	「関係力」とは何かを理解し、自己開示(言語的な伝達)することができる。	
4. /	コミュニケーション分析 (2)	自分の魅力に気づく。自己表現トレーニング(自己の強みと弱みを理解)を行い、自己力アップを図ることができる。	
5. /	コミュニケーション分析 (3)	人に好かれる対人関係のヒントを学び、自己トレーニングが実践できるようになる。	
6. /	メンタルトレーニング	メンタルを強くする方法の学習と、自己の弱みを克服できるようになる。	
7. /	福祉現場を含めたコミュニケーション術	実際の現場で必要とされる対人関係スキルを学び、活用できるようになる。	
8. /	授業のまとめと今後の自己課題の確認	授業のまとめ・対人関係に対しての自信が持てるようになる。	

3 年前期 講義

＜基礎分野＞ 科目名 コミュニケーション能力Ⅱ 講師名 植野 正之 単位数 1

授業概要	近年グローバル化が進み、歯科医療の現場においても外国人の患者に接する機会が増えてきている。本授業では、歯科衛生士として日本語を母国語としない外国人の患者に対して、英語を用いて対応できる基礎的な能力を身につける
教科書	特になし
副教材	特になし
評価方法	筆記試験による客観評価

授業計画

回・月/日	項目	到達目標	備考
1. 4/22	Making an Appointment by Telephone	英語で患者の電話予約の対応ができる	
2. 5/ 6	Emergency Appointments	英語で緊急の予約の電話に対応できる	
3. 5/13	Asking the Medical History	英語で病歴を尋ねることができる	
4. 5/20	Tooth Brushing Instructions for a Child	英語で子どもに歯みがき指導ができる	
5. 5/27	Periodontal Disease	英語で歯周病について説明できる	
6. 6/ 3	Why Do I Need Cleaning?	英語でクリーニングの重要性について説明できる	
7. 6/10	Postoperative Instructions to the Patients	英語で患者への術後の注意ができる	
8. 7/ 1	Fluoride Treatment	英語でフッ化物の応用について説明できる	

3 年後期 講義

＜基礎分野＞ 科目名 コミュニケーション能力Ⅲ 講師名 高井恵美 単位数 1

授業概要	手話の学習を通して、聴覚障害者に対する理解を深め、聴覚障害者に対応するコミュニケーション能力を修得する。
教科書	「手にことばを 手話テキスト 初級用」
副教材	配布プリント
評価方法	実技試験

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	コミュニケーション方法・挨拶 自己紹介	聴覚障害者のコミュニケーション方法を理解し、挨拶、氏名を手話で表現できる。	
2. /	自己紹介・指文字	住所、趣味等を表現できる。 指文字を表現できる。	
3. /	自己紹介・数詞	数詞、年齢、誕生日、家族を表現できる。	
4. /	手話でスピーチ	手話で自己紹介ができる。	
5. /	疑問文の手話	疑問文の手話を表現できる。	
6. /	時制の手話	現在、過去、未来の時制を表現できる。	
7. /	歯科医院での会話 感情を表す手話	歯科医院で必要な基本的な会話を表現できる。	
8. /	まとめの実技試験	修得した手話の能力を確認する。	45 分

1 年前期 講義

＜基礎分野＞ 科目名 健康社会学 講師名 植田 結人 単位数 1

授業概要	・人々が生活している場（家族、学校、職場、地域、病院など）での人間関係力を活用し、人々が健康で幸せな生活を営むことができるようになるための知識と技術を学ぶ ・ものの見方・考え方などといった社会学的視点や創造力を育む ・ヘルスプロモーションの理論と実践について学ぶ
教科書	島内憲夫・鈴木美奈子著：健康社会学講義ノート、垣内出版（2018）
副教材	
評価方法	試験は行わず、レポート課題、授業態度、出席日数等で評価する。 レポートは理解度や応用力（創造力）を評価するための課題であるため、講義や調べたものをまとめるだけではなく、自分のアイデアや意見をしっかりと述べているかについても評価する。

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. 5／18	オリエンテーション 健康社会学とは	・主体性と関係性の重要点を列挙できる ・健康社会学の定義について説明できる	45分
2. 5／25	健康社会学的創造力 健康概念	・健康社会学創造力について説明できる ・健康の定義について説明できる	
3. 6／1	健康行動	・健康行動の理論やモデルを説明できる ・行動変容について説明することができる	
4. 6／8	ヘルスプロモーション ・オタワ憲章 ・バンコク憲章	・WHOのヘルスプロモーションの概念について説明することができる ・オタワ憲章とバンコク憲章の相違点を述べる	
5. 6／22	健康と幸福・ダイバーシティ	・幸福の概念が説明できる。 ・幸福の決定要因について説明できる ・ダイバーシティに関する社会問題を挙げる	
6. 6／29	健康なまちづくり 健康な家族づくり	・住民参加型の健康なまちづくりについて説明することができる ・家族の保健機能を列挙できる	
7. 7／6	健康な学校づくり 健康な病院づくり	・健康な学校づくりの概念について説明することができる ・健康な病院づくりの概念について説明することができる	
8. 7／13	健康な職場づくり （CSR・健康経営）	・健康な職場づくりの概念について説明することができる ・CSRと健康経営の事例を述べる ・具体的な事例を基に、ヘルスプロモーションの5つの活動について理解を深める	

2年後期 講義

＜基礎分野＞ 科目名 心理学 講師名 李 正姫 単位数 2

授業概要	人の「こころ」についての知識を習得することで、心と身体の密接な関係を学び、人の健康における幅を拡げた知見を得る。すなわち、人の身体的な健康において心理的な側面からの視点や、心理的な健康において身体的側面からの視点を持てるようにする。得た知識について自分なりに考察をし、専門的業務の助けになることと、自身の生活に活かせるようにする。すなわち、対人援助場面において、相手に配慮した話し方、伝え方が出来るようになることや、自身の生活で困り事があった時に、心理学的知見からの対処する視点を身につけられるようになる。
教科書	「最新歯科衛生士教本 心理学」
副教材	プリント資料等配布
評価方法	期末試験（筆記試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	知覚の心理	人の感覚の種類や刺激の把握と、実際の体験を通して、知覚に対する理解を深め、錯視に対する知見や体験を説明することができる	
2. /	学習の心理	心理学における学習について理解し、説明すること、自身の行動のメカニズムについて学習理論に基づいて説明することができる	
3. /	やる気・葛藤の心理	人間の生活の中での動機づけ、欲求、葛藤について学び、動機づけを高める上で自身に必要なことを把握し、説明することができる	
4. /	人間の生活とストレス	自身のストレス状態や過度なストレスの影響を理解し、過去のストレスと、今後の予測されるストレスの理解や対処法を考え、説明することができる	
5. /	パーソナリティと知能（1）	性格とは何か、測定方法も合わせて学び、性格についての概説と、自身の性格について把握することができる	
6. /	パーソナリティと知能（2）	知能とは何か、測定方法も合わせて学び、知能についての概説と、自身の知能について、得意不得意について考え、把握することができる	
7. /	考えるこころ	思考についての様々な種類や方法を把握し、思考の手段や種類による、判断の誤りが生じる場合について説明することができる	
8. /	こころの発達と異常（1）	人間の心理を発達の側面から考え、発達の障害を把握する方法及び、発達障害に対する知見について説明することができる	
9. /	こころの発達と異常（2）	発達段階に応じて見られる心理的異常を理解し、自分のこれまでの発達課題が達成や、これからの発達段階における達成すべき課題について把握し、説明することができる	
10. /	社会・集団の心理（1）	様々な印象形成や対人認知の種類を把握し、これまでの自身の印象形成や対人認知の特徴を把握し、説明することができる	
11. /	社会・集団の心理（2）	集団における人間の心理を学び、自身の集団における行動の特徴を把握し、説明することができる	
12. /	人の健康	主な精神疾患の特徴を把握し、様々な心理療法についての知見を得て、実際に体験する	

13. /	カウンセリングの基本	カウンセリングに対する基本的な事項を学び、 それらが今後の仕事や対人関係においてどのよう に活用できるかを把握し、説明できる	
14. /	カウンセリングの応用	体験を通じて、応用的カウンセリング技法を身 につけ、自身の対人援助や関係を作る上でどの ようにすれば良いか、どの点に気を付けるべき か説明することが出来る	
15. /	まとめ	本講義のまとめと到達度の確認を行う	

1 年前期 講義

＜専門基礎分野＞ 科目名 解剖学 講師名 水野潤造 単位数 2

授業概要	医療に携わる職種の歯科衛生士にとって最も基本的な知識として必要なのが解剖学である。口腔は全身の一部であるため、全身の構造と機能を理解することは口腔領域の構造と機能を理解するために必須である。また、全身疾患を有する患者の状態を理解するためにも必要となる。人体は骨、血管、神経など、さまざまな器官系からなりたっている。これら器官系ごとに特徴を学び、人体の構造の全体像を理解していく。
教科書	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学
副教材	歯科衛生士書き込み式学習ノート 配布資料
評価方法	期末試験（筆記試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. 4／16	解剖学総論	人体の構成と区分を説明できる。 解剖学で用いる用語を説明できる。 体の方向や部位を説明できる。	
2. 4／23	骨	骨の構造や形態を説明できる。 頭部と体幹を構成する骨の名称と構造を説明できる。	
3. 4／30	筋	筋の構造や形態を説明できる。 頭部と体幹を構成する筋の名称と構造を説明できる。	
4. 5／7	神経 1	神経系の概要と構成を説明できる。	
5. 5／21	神経 2	中枢神経系の構造と形態を説明できる。	
6. 5／28	神経 3	末梢神経系の構造と形態を説明できる。	
7. 6／4	神経 4	自律神経系の構造と形態を説明できる。	
8. 6／11	感覚器	感覚器の構造と形態を説明できる。	
9. 6／18	循環器 1	循環系の概要を説明できる。 心臓の位置や構造、血管を説明できる。	
10. 6／18	循環器 2	動脈系・静脈系・リンパ系の構造と走行を説明できる。	
11. 6／25	呼吸器	呼吸器系の概要を説明できる。 呼吸器の位置や形態、構造を説明できる。	
12. 6／25	消化器 1	中腔性器官である消化管の形態と構造を説明できる。	
13. 7／2	消化器 2	実質性器官である胆嚢、肝臓、膵臓の形態と構造を説明できる。	
14. 7／9	泌尿器・生殖器	泌尿器の形態と構造を説明できる。 生殖器の形態と構造を説明できる。	
15. 7／16	内分泌	内分泌器官の種類や形態、構造を説明できる。	

1 年前期 講義

＜専門基礎分野＞ 科目名 口腔解剖学 講師名 水野潤造 単位数 2

授業概要	歯科衛生士にとっての専門領域である口腔を理解するため、口腔付近と歯の詳細な解剖学を学ぶことは大切である。口腔および歯、歯列の正確な形態は、歯科衛生士の業務を遂行するうえで、必須の基礎知識となる。この授業では、口腔および歯の基本的な形態と特徴、乳歯と永久歯の特徴、歯列と咬合の特徴を学習し、臨床へつながる基礎知識を獲得していく。
教科書	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学
副教材	歯科衛生士書き込み式学習ノート 配布資料
評価方法	期末試験（筆記試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. 4／16	口腔を構成する臓器	口腔の構造を説明できる。 舌および唾液腺の構造を説明できる。	
2. 4／23	顎顔面の骨	上顎骨と口蓋骨について説明できる。 下顎骨と舌骨について説明できる。 顎関節と下顎運動について説明できる。	
3. 4／30	顎顔面の筋	表情筋、咀嚼筋、舌筋、舌骨筋などについて説明できる。	
4. 5／7	頭頸部の脈管系	頭頸部に分布する動脈について説明できる。	
5. 5／21	頭頸部の脈管系	頭頸部に分布する静脈とリンパについて説明できる。	
6. 5／28	頭頸部の神経系	三叉神経系について説明できる。	
7. 6／4	頭頸部の神経系	顔面神経系について説明できる。	
8. 6／11	頭頸部の神経系	舌咽、舌下、迷走神経系について説明できる。	
9. 6／18	歯の形態：概論	歯の構造的機能や歯式などについて説明できる。 歯の形態や特徴について説明できる。	
10. 6／25	歯の形態：永久歯	永久歯の前歯の特徴について説明できる。	
11. 7／2	歯の形態：永久歯	永久歯の小臼歯の特徴について説明できる。	
12. 7／9	歯の形態：永久歯	永久歯の大臼歯の特徴について説明できる。	
13. 7／9	歯の形態：永久歯・異常歯	永久歯の大臼歯の特徴について説明できる。 異常歯の特徴について説明できる。	
14. 7／16	歯の形態：乳歯	乳歯の特徴について説明できる。	
15. 7／16	歯の形態：歯列と咬合	永久歯列と乳歯列の特徴について説明できる。 歯列と咬合の特徴について説明できる。	

1 年後期 講義

＜専門基礎分野＞ 科目名 組織・発生学 講師名 前田信吾 単位数 1

授業概要	組織学：動物において共通である基本的な4つの組織から器官や臓器の微細構造を学ぶ。 発生学：ヒト個体における初期発生の過程により全体的な流れを知り、口腔および歯の発生により、口腔内の発生を細分化して学ぶ。
教科書	「最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 「最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学
副教材	歯科衛生士書き込み式学習ノート第（2版） 配布資料
評価方法	・提出物 ・期末試験（筆記試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	総論（細胞・発生）	細胞の定義や基本的な構造を説明できる。 発生のおおまかな過程を説明できる。	
2. /	総論（組織・器官系）	細胞と組織の違いを説明できる。 各器官系の違いと組織との関係を説明できる。	
3. /	組織（全身）	上皮組織・筋組織・結合組織・神経組織の違いと各組織系による構成された物を分類分けできる。	
4. /	組織（歯根膜・歯槽骨）	歯の入る器である歯槽骨、歯を安定化する歯根膜の違いを理解し分類分けできる。	
5. /	組織（歯肉・口腔粘膜）	口腔内において 歯 以外は上皮で覆われ、歯肉・口腔粘膜と言われるがその違いを説明できる。	
6. /	発生（全身・口腔）	全身の発生で器官発生の概要を知り、口腔発生において、顎顔面の発生では過程を説明できる。	
7. /	発生（歯）	歯の発生において、乳歯や永久歯の発生・萌出・交換などの時期と順番を説明できる。	
8. /	まとめ	ヒトの組織と発生について全体的に説明できる。	

1 年前期 講義

＜専門基礎分野＞ 科目名 生理・口腔生理学 講師名 田崎雅和 単位数 2

授業概要	生体の恒常性(ホメオスタシス)を維持するための基本的な調節機構の知識を学び、生体の機能・調節機構を理解し説明できる。同様に口腔・顎顔面領域の生理的機能と調節機構を理解し説明できる。
教科書	最新歯科衛生士教本 解剖学・組織発生学・生理学 最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口組織発生学・口生理学
副教材	配布プリント
評価方法	国家試験形式による客観試験方式による総括評価

授業計画

回・月/日	項目	到達目標	備考
1. 4/22	生物と生命現象 神経細胞	体液について説明できる。 細胞の電気現象について説明できる。	
2. 5/ 6	神経(末梢神経系)	末梢神経系の機能について説明できる。	
3. 5/ 6	神経(中枢神経系)	中枢神経系の機能について説明できる。	
4. 5/13	筋 肉	筋の機能について説明できる。	
5. 5/13	血液・血液凝固	血液(血球と血漿タンパク)の機能と血液凝固機序について説明できる。	
6. 5/20	循環(心機能)	心臓の機能について説明できる。	
7. 5/27	呼 吸	呼吸の仕組み、呼吸中について説明できる。	
8. 6/ 3	内分泌	液性調節について説明できる。	
9. 6/10	消化・吸収	消化管運動と消化液分泌について説明できる。	
10. 6/24	排泄・体温	腎臓の機能と体温調節について説明できる。	
11. 7/ 1	体性感覚・口腔感覚	口腔の表面感覚と深部感覚について説明できる。	
12. 7/ 8	特殊感覚	特殊感覚(味覚)について説明できる。	
13. 7/15	咬合と咀嚼	咀嚼筋の機能と顎反射について説明できる。	
14. 9/ 2	摂食・嚥下	嚥下と嘔吐の機能とその機序について説明できる。	
15. 9/ 9	唾液・発音	唾液分泌と発音の機能と機構ならびに神経支配について説明できる。	

1 年後期 講義

＜専門基礎分野＞ 科目名 生化学 講師名 田中秀樹 単位数 2

授業概要	各臓器の細胞レベルで行われる代謝の概要を理解し、生命維持に必要な栄養素の重要性を認識する。
教科書	「最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝」
副教材	なし
評価方法	期末試験（筆記試験）

授業計画

回・月/日	項目	到達目標	備考
1. /	細胞の役割	生物の基本単位である細胞の構造と細胞内小器官の役割を説明できる。	
2. /	生体における水	生体内における水の分布・性質・役割を説明できる。	
3. /	生体を構成する成分	生体を構成する成分の種類、構造、役割を説明できる。	
4. /	生体における化学反応	三大栄養素の消化吸收の過程を説明できる。	
5. /	糖質と脂質の代謝	生体内の主要なエネルギー源となる糖質と脂質の代謝過程を説明できる。	
6. /	タンパク質代謝	生体内で多様な機能をもつタンパク質の合成とアミノ酸代謝過程を説明できる。	
7. /	生体における恒常性	生体内の恒常性維持にホルモンや自律神経系が関与していることを述べるができる。 また、血糖値を調節する仕組みを説明できる。	
8. /	結合組織	結合組織を構成する線維性タンパク質および線維間マトリックス成分の種類と特性を説明できる。 また、それらを分解する酵素の種類を列挙できる。	
9. /	骨代謝と血清カルシウム調節機構	- 骨リモデリングのしくみを説明できる。 - 血清カルシウム調節の仕組みを説明できる。	
10. /	歯と歯周組織	- 歯と歯周組織の構造を説明できる。 - 歯の組成、歯の無機・有機成分の特性を説明できる。	
11. /	唾液の生化学	唾液の組成と唾液中の無機・有機成分の種類と役割を説明できる。	
12. /	ペリクルとプラーク ースクロース(ショ糖)の 為害性ー	- ペリクルの組成と役割を説明できる。 - 菌の巣窟となるプラークの形成にはスクロースの存在が深く関与すること、プラーク中に棲息する菌はう蝕や歯周疾患を引き起こす重要な因子の一つであることを説明できる。	
13. /	う蝕発症機構	- う蝕は多因子性疾患であること、また、その発症にはプラーク中に棲息する通性嫌気性の酸産生菌が深く関与していることを説明できる。 - フッ化物や代用甘味料がう蝕予防に有効であることを説明できる。	
14. /	歯周疾患発症機構（生体 防御機構と炎症反応）	歯周疾患の発症には歯周ポケットのプラーク中に棲息する嫌気性のグラム陰性菌が深く関与していること、また、その進行には細菌活性と生体防御反応との力関係が大きく影響することを説明できる。	
15. /	まとめ	1～14 回のまとめ	

1 年前期 講義

＜専門分野＞ 科目名 病理学 講師名 浅野正岳・角田麻里子 単位数 1

授業概要	病理学総論について学修し、後期に学習する口腔病理学の基本的な理解につなげる。
教科書	歯科衛生士教本 病理学・口腔病理学 (医歯薬出版 第2版)
副教材	
評価方法	基本的には定期試験の成績により評価を行う。

授業計画

回・月/日	項目	到達目標	備考
1. 4/20	病因論・代謝障害	病理学の意義と病因の理解および退行性病変について説明できる。	浅野
2. 4/27	増殖と修復	進行性病変について説明できる。	角田
3. 5/11	循環障害	充血・うっ血・虚血などについて説明できる。	角田
4. 5/18	炎症・感染症Ⅰ	炎症の分類・特徴など基礎的概念について説明できる。	角田
5. 5/25	炎症・感染症Ⅱ	重要な感染症とその病態について類別して説明できる。	浅野
6. 6/ 1	免疫と免疫異常	免疫の基礎と関連する疾患について説明できる。	浅野
7. 6/ 8	腫瘍	腫瘍の分類・基礎について説明できる。	浅野
8. 6/22	遺伝性疾患と奇形	先天異常や奇形について説明できる。	角田 45分 授業

1 年後期 講義

＜専門基礎分野＞ 科目名 口腔病理学 講師名 浅野正岳・角田麻里子 単位数 1

授業概要	口腔に生じる種々の疾患の病態について学修する。
教科書	「最新歯科衛生士教本 病理学・口腔病理学」
副教材	
評価方法	定期試験（筆記試験）の成績により評価を行う。出席の状況を加味する場合がある。

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	歯の発育異常	歯の形態、数、位置、萌出の異常などについて説明できる。	角田
2. /	歯の損傷・付着物・う蝕	ブラークや歯石の基礎とう蝕について説明できる。	浅野
3. /	象牙質・歯髄複合体の病変と根尖性歯周炎	歯髄の病変とそれに継発する根尖性歯周炎について類別して説明できる。	角田
4. /	歯周組織の病変	辺縁性歯周炎および治癒過程について述べ説明できる。	浅野
5. /	顎骨病変と発育異常	顎骨病変と口蓋裂などについて説明できる。	角田
6. /	口腔粘膜の疾患・口腔癌	粘膜病変および前癌病変の種類について説明できる。（特に白板症、扁平苔癬など）	浅野
7. /	嚢胞と腫瘍	各種嚢胞および腫瘍などについて類別し比較できる。（歯根肉芽腫や歯根嚢胞など）	角田
8. /	唾液腺病変・加齢変化	唾液腺病変・加齢変化に伴う病変について説明できる。	浅野 45 分

1 年前期 講義

＜専門基礎分野＞ 科目名 微生物学 講師名 落合邦康 単位数 2

授業概要	新型コロナウイルス感染症を通して微生物感染症の脅威を十分に理解したはずですが、皆さんが知っているインフルエンザは以前、新型コロナウイルスと同様の社会現象を起こしましたが、今は季節性インフルエンザとなりました。なぜ、今は脅威ではないのか？ウイルスとヒトの間に何が起こったのか考えてみてください。そこで、微生物学の講義は以下の項目を背景に授業を実施します：1) 医療従事者がなぜ微生物学、免疫学を学ぶ必要があるか、2) 超高齢化社会における歯科医療における医科歯科連携はどうあるべきか、3) 口腔ケアの専門職として歯科衛生士が果たす役割とはなにか。 医学微生物学においては微生物の種類、特徴や病原性を学び感染症を理解する。免疫学においては生体の感染防御機構の基礎を学び、内因性および外因性感染症の違いを理解する。また、免疫学では自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫の基礎を学び、感染発症の背景や常在細菌と宿主との共生関係を理解する。 口腔微生物学においては口腔の特徴、口腔細菌の種類と特徴および口腔の二大疾患・う蝕と歯周病の発症の背景を学び理解する。その他の口腔感染症を学び、その発症機序を理解する。さらに、口腔感染症を誘因とする全身疾患とその発症機序、および高齢者に特有の口腔感染症を学ぶ。「常在菌との共生」の重要性を理解するため、微生物学及び免疫学の学習で学んだ知識を基に発症機序を総合的に理解する。これらの内容は副教材「人は口から老い、口で逝く」詳細に説明してあるので熟読すること。
教科書	「最新歯科衛生士教本 微生物学」(医歯薬出版)、
副教材	「人は口から老い、口で逝く」落合邦康著、日本プランニングセンター 「口腔微生物学」編集 落合邦康他(学建書院)
評価方法	定期試験(8割)、レポート及び受講態度(2割)等により総合的に評価する。

授業計画

回・月/日	項目	到達目標	備考
1. 4/20	微生物と感染症	感染の種類と特徴を説明できる。 感染と発症の違いを説明できる。	
2. 4/27	微生物の分類と構造(微生物分類、構造、病原性)	微生物の基本的構造が病原性に及ぼす影響を説明できる。	
3. 5/11	代表的病原性細菌(球菌・桿菌、病原因子、感染経路)	細菌の感染経路および病原因子が感染・発症に及ぼす影響を説明できる。	
4. 5/18	他の細菌感染(スピロヘータ、マイコプラズマ他)	球菌・桿菌以外の細菌の基本構造の違いと感染症の特徴を説明できる。	
5. 5/25	ウイルス感染症(構造、病原性、感染症)	ウイルスの基本構造およびウイルス感染症の特徴を説明できる。	
6. 6/1	真菌感染症(構造、病原性、感染症)	真菌の基本構造を説明できる。 真菌感染症とその特徴を説明できる。	
7. 6/1	滅菌と消毒(滅菌法、消毒薬)、化学療法	滅菌・消毒の意義と原理を説明できる。 化学療法の目的と原理を説明できる。	
8. 6/8	自然免疫と獲得免疫	自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。 自然免疫、獲得免疫に関与する因子を説明できる。	
9. 6/8	体液性免疫(抗体の種類と特徴、その作用機序)	体液性免疫の基本とその役割を説明できる。 抗体の種類と特徴を説明できる。 抗体産生機序を説明できる。	
10. 6/22	細胞性免疫とアレルギー(細胞性免疫の役割と作用機序、アレルギーの種類)	細胞性免疫の基本とその役割を説明できる。 アレルギーの種類をあげ発症機序を説明できる。	

11. 6/29	口腔環境と口腔微生物 口腔細菌叢と腸内細菌叢	口腔環境の特徴を説明できる。 口腔細菌叢の特徴を説明できる。 口腔と腸内細菌叢の類似点・相違点を説明できる。 歯垢形成機序を説明できる。	
12. 7/ 6	う蝕と歯周病 (1)	う蝕の原因菌をあげその病原性を説明できる。 う蝕の発症機序を説明できる。 歯周病の原因菌をあげその病原性を説明できる。 歯周病の発症機序を説明できる。	
13. 7/13	う蝕と歯周病 (2) その他の口腔感染症	歯周病発症の背景を説明できる。 口腔感染症名と原因菌をあげ特徴を説明できる。 口腔感染症の発症機序を説明できる。	
14. 9/ 7	口腔感染症と全身疾患 医科歯科連携の必要性	口腔感染症がリスクとなる難治性全身疾患をあげることができる。 口腔感染症がリスクとなる難治性全身疾患の背景を説明できる。 高齢者の口腔感染症の特徴を説明できる。	
15. 9/14	新たな視点から口腔を考える。全身疾患と歯科医療	口腔が関連する全身疾患発症予防における口腔ケアの重要性を説明できる。 医科歯科連携の重要性を説明できる。	

1 年後期 講義

＜専門基礎分野＞ 科目名 栄養学 講師名 高野由美子 単位数 1

授業概要	歯科衛生士が食生活指導を行う上で、必要な各栄養素の役割と望ましい摂取量の基準を学び、栄養学の基本的知識を習得する。
教科書	「最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝」 「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（第2版）」
副教材	「食品成分表 2015 年版（七訂）女子栄養大学出版部」 配布プリント
評価方法	期末試験（筆記試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	栄養の基礎知識	・ 五大栄養素の種類を類別できる。 ・ 各栄養素の役割と消化・吸収を説明できる。 ・ 国民健康・栄養調査結果から、日本人の栄養摂取状況を説明できる。	
2. /	食事摂取基準	・ 日本人の食事摂取基準（2020年版）に示されたエネルギーと栄養素の各指標を説明できる。 ・ エネルギー必要量と基礎代謝を説明できる。	
3. /	栄養素の働きⅠ 糖 質	・ 糖質の種類を類別できる。 ・ 糖質の働き・必要量・給源を述べることができる。 ・ 糖質とう蝕の関係を説明できる。	
4. /	栄養素の働きⅡ タンパク質	・ タンパク質の種類を類別できる。 ・ タンパク質の働き・必要量・給源を述べることができる。 ・ タンパク質の栄養価を説明できる。	
5. /	栄養素の働きⅢ 脂 質	・ 脂質の種類を類別できる。 ・ 脂質の働き・必要量・給源を述べることができる。 ・ 脂肪酸の種類と特徴を列挙できる。	
6. /	栄養素の働きⅣ ビタミン	・ ビタミンの種類を類別できる。 ・ 各ビタミンの働き・給源を述べることができる。 ・ ビタミンの欠乏症を述べることができる。	
7. /	栄養素の働きⅤ ミネラル	・ ミネラルの種類を類別できる。 ・ 各ミネラルの働き・給源を述べることができる。 ・ ミネラルの欠乏症を述べることができる。	
8. /	栄養素の働きⅥ 水・食物繊維	・ 水の働きを列挙できる。 ・ 水の代謝・必要量・給源を述べることができる。 ・ 食物繊維の種類を類別できる。 ・ 食物繊維の働き・必要量・給源を述べることができる。	45 分

2 年前期 講義

＜基礎分野＞ 科目名 薬理学 講師名 李 昌一

単位数 2

授業概要	歯科衛生士業務を行う為に必要な薬理学に関わる必要な基礎知識を理解し、修得する。
教科書	「最新歯科衛生士教本 薬理学 第 2 版」(医歯薬出版)」
副教材	
評価方法	マークシート形式による多肢選択問題による筆記試験

授業計画

回・月/日	項目	到達目標	備考
1. 4 /22	薬とは？ 病気とは？ 薬理学とは？	薬、病気、薬理学の概要を理解し、説明できる	
2. 5 /6	薬物の作用機序 薬物療法 薬理作用	薬物の作用機序の薬物療法、薬理作用について理解し、説明できる	
3. 5 /13	薬物の作用機序 薬用量	薬用量を理解し、説明できる	
4. 5 /13	薬物動態 投与方法	薬物動態の投与方法について理解し、説明できる	
5. 5 /20	薬物動態 薬の運命(吸収・分布・代謝・排泄)	薬物動態の薬の運命(吸収・分布・代謝・排泄)について理解し、説明できる	
6. 5 /27	薬物動態 生体利用率(バイオアベイラビリティ) 生物学的半減期	薬物動態の生体利用率(バイオアベイラビリティ)・生物学的半減期について理解し、説明できる	
7. 6 /3	薬物の副作用 主作用、副作用 有害作用 相互作用	薬物の副作用の主作用、副作用、有害作用相互作用について理解し、説明できる	
8. 6 /10	医薬品の分類と薬物の取り扱い	医薬品の分類と薬物の取り扱いについて理解し、説明できる	
9. 6 /24	中枢神経系作用薬物(向精神薬)	中枢神経系作用薬物(向精神薬)について理解し、説明できる	
10. 7 /1	末梢神経系作用薬物	末梢神経系作用薬物について理解し、説明できる	
11. 7 /1	局所麻酔薬	局所麻酔薬について理解し、説明できる	
12. 7 /8	鎮痛・抗炎症薬	鎮痛・抗炎症薬について理解し、説明できる	
13. 7 /8	呼吸器系・循環器系薬	呼吸器系・循環器系薬について理解し、説明できる	
14. 7 /15	止血薬・抗血栓薬	止血薬・抗血栓薬について理解し、説明できる	
15. 9 /2	抗菌薬	抗菌薬について理解し、説明できる	

1 年前期 講義

＜専門基礎分野＞ 科目名 衛生・公衆衛生学 講師名 戸田 真司 単位数 2

授業概要	衛生学は疾病を予防し健康を保持増進することによって人としての機能や能力を十分発揮できるようにするための学問である。健康と予防医学の概念、人をとりまく自然・社会的環境と健康との関係や集団を対象とした疾病予防と地域保健活動について学修する。具体的には人口問題や環境変化による健康影響、健康に係わる地域の役割、ライフステージに対応した地域保健活動について修得する。
教科書	「医療スタッフのための衛生学エッセンスー2020/2021ー」
副教材	配布プリント
評価方法	期末試験（100点満点：国家試験形式）90% 授業への参加度 10%

授業計画

回・月/日	項目	到達目標	備考
1. 4/22	衛生・公衆衛生学の概要（1）	- 健康の概念と健康増進を説明できる。 - 疾病の自然史と予防の考え方を説明できる。	
2. 5/ 6	衛生・公衆衛生学の概要（2）	- 生涯を通じた保健や福祉を説明できる。 - 健康づくり運動の変遷と現状を説明できる。	
3. 5/13	人口	- 人口の推移と年齢別人口構造の変化を説明できる。 - 人口静態統計と動態統計を説明できる。 - 平均余命、平均寿命、健康寿命を説明できる。	
4. 5/20	環境と健康（1）	- 地球温暖化について説明できる。 - 地球環境と健康について説明できる。 - 地球環境の保全対策について説明できる。	
5. 5/27	環境と健康（2）	- 大気環境を説明できる。 - 飲料水と健康を説明できる。 - 水道水を説明できる。	
6. 5/27	環境と健康（3）	- 下水道と下水処理を説明できる。 - 住環境と健康を説明できる。 - 放射線と健康を説明できる。	
7. 6/ 3	環境と健康（4）	- 環境保全と公害防止を説明できる。 - 一般廃棄物と産業廃棄物を説明できる。 - 廃棄物処理を説明できる。	
8. 6/10	感染症（1）	- 感染症成立の3要素について説明できる。 - 感染症予防の感染源対策、感染経路対策、宿主感受性対策を説明できる。 - 感染症の予防を説明できる。	
9. 6/10	感染症（2）	- 法律に基づく感染症対策を説明できる。 - 感染症法に基づく感染症類型と対応を説明できる。 - 主な感染症の発生動向を説明できる。 - 院内感染とその予防を説明できる。	
10. 6/24	生活習慣病・食中毒	- ライフスタイルと生活習慣病との関連を説明できる。 - 主な生活習慣病とその予防を説明できる。 - 食中毒の分類と発生動向を説明できる。 - 食中毒の疫学を説明できる。 - 食中毒の予防と対策を説明できる。	
11. 7/ 1	地域保健	- 地域保健の組織と役割を説明できる。 - 保健所と市町村保健センターを説明できる。 - 医療圏と保健医療計画を説明できる。 - 地域保健活動の進め方を説明できる。	

12. 7/ 8	母子保健・学校保健	・母子保健の意義を説明できる。 ・母子保健活動と対策を説明できる。 ・学校保健の意義を説明できる。 ・学校保健活動と保健安全対策を説明できる。	
13. 7/15	成人・高齢者保健	・成人・高齢者保健の意義を説明できる。 ・成人保健対策を説明できる。 ・高齢者の保健福祉対策を説明できる。 ・要介護者の保健福祉対策を説明できる。	
14. 9/ 2	産業保健	・産業保健の意義を説明できる。 ・産業保健の管理体制を説明できる。 ・産業保健対策を説明できる。	
15. 9/ 2	精神保健	・精神保健の意義を説明できる。 ・発育に伴う精神保健の問題点を説明できる。 ・精神保健活動を説明できる。	

1 年後期 講義

＜専門基礎分野＞ 科目名 予防歯科学 講師名 戸田 真司 単位数 2

授業概要	歯と口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みを学修する。具体的には疾病異常の原因、予防に関する科学的事実と基礎を正しく理解し、必要な知識と技術を身につけ、患者の教育と指導の実践の能力を修得する。
教科書	「歯科衛生士テキスト・口腔衛生学—口腔保健統計を含む—（学建書院）第4版」
副教材	配布プリント
評価方法	期末試験（100点満点：国家試験形式）90% 授業への参加度 10%

授業計画

回・月/日	項目	到達目標	備考
1. /	口腔衛生学の意義、歯・口腔の健康と機能	- 口腔保健の概要と健康の概念を説明できる。 - 予防の3相5段階を説明できる。 - 咀嚼の意義を説明できる。	
2. /	歯・口腔の発育変化	- 歯と口腔の機能を説明できる。 - 歯と口腔の発育変化を説明できる。 - 歯の形成に必要な栄養素と役割を説明できる。	
3. /	口腔環境	- 唾液の作用を説明できる。 - ペリクルの意義と特徴を説明できる。 - エナメル質の萌出後の成熟現象を説明できる。 - 口腔常在菌の分布の概要を説明できる。	
4. /	歯・口腔の付着物・沈着物（1）	- プラークの形成機序と特徴を説明できる。 - マテアリアルバの特徴を説明できる。 - プラークの成熟による口腔細菌叢の変化を説明できる。 - 食物残渣とプラークとの関連を説明できる。	
5. /	歯・口腔の付着物・沈着物（2）	- 歯石形成機序と特徴を説明できる。 - 着色性沈着物の特徴を説明できる。 - 舌苔の特徴と清掃法を説明できる。	
6. /	口腔清掃（1）	- プラークコントロールの意義を説明し、口腔清掃法を分類できる。 - 歯ブラシの構成を説明できる。 - 歯垢染色剤を分類できる。	
7. /	口腔清掃（2）	- 口腔清掃の補助清掃用具の特徴を説明できる。 - 歯磨剤と洗口剤を分類し、成分と機能を説明できる。	
8. /	口腔清掃（3）	- ブラッシングの方法と特徴を説明できる。 - 歯と口腔のライフステージに応じたリスクとプラークコントロールによる対処を説明できる。	
9. /	う蝕の予防（1）	- う蝕の発生要因と発生機序を説明できる。 - う蝕における脱灰と再石灰化平衡を説明できる。	
10. /	う蝕の予防（2）	- う蝕活動性試験を分類し、特徴と判定方法を説明できる。 - う蝕予防の3相5段階を説明できる。	
11. /	歯とフッ化物（1）	- フッ化物の意義と自然界での分布を説明できる。 - フッ化物の代謝と急性毒性を説明できる。	
12. /	歯とフッ化物（2）	- フッ化物の慢性毒性を説明できる。 - フッ化物によるう蝕予防機序を説明できる。 - フッ化物応用の歴史を説明できる。	
13. /	歯とフッ化物（3）	- フッ化物全身応用と局所応用を分類し、特徴を説明できる。 - フッ化物応用によるう蝕予防効果を説明できる。	

14. ／	歯周疾患の予防	・歯周疾患を分類できる。 ・歯周疾患の発生要因とリスクファクターを列挙できる。 ・歯周疾患予防の３相５段階を説明できる。	
15. ／	口臭・不正咬合・他疾患の予防	・不正咬合の特徴と予防方法を説明できる。 ・口臭の特徴と予防方法を説明できる。 ・その他の歯科疾患の特徴と予防方法を説明できる。	

2 年後期 講義

＜専門基礎分野＞ 講師名 酒寄孝治 科目名 衛生行政 単位数 1

授業概要	この講義の一般目標は、「歯科保健医療に対する社会的ニーズに応えるために、歯科衛生士業務に必要な衛生行政及び関係法規に関する知識を身につける」ことです。 保健医療は法で定められた制度に基づいて行われているものです。そのためには歯科医学の知識・技能と併せて社会の仕組みを理解しなければなりません。また、法律や制度は社会の動向に合わせ絶えず動くものです。国民に安全・安定した歯科医療を提供する歯科保健医療従事者には、常に社会の動きを把握し、理解・行動することが求められています。 医療に関わる社会の動向については、新聞、テレビ、インターネットなどを利用し積極的に情報収集を行うようにしてください。 ※ 各回の授業の重要なポイントの把握と学生自身が自分の理解度を把握するために、プレテスト、ポストテストを行います。
教科書	「最新歯科衛生士教本 歯科衛生士と法律・制度（第3版）」
副教材	必要に応じて資料を配布します。 《参考資料》 ・歯科六法コンメンタール ― 歯科関連法律の逐条解説 第3版（社会歯科学会編 ヒョーロン・パブリッシャーズ） ・国民衛生の動向 2020/2021（一般財団法人厚生労働統計協会） ・電子政府の総合窓口 e-Gov（https://www.e-gov.go.jp/）
評価方法	・定期試験：筆記試験（論述、多肢選択式） ・提出物：プレ・ポストテスト、その他課題

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1 /	・はじめに ・歯科衛生士法	・歯科衛生士法について説明できる。	
2. /	・歯科医師法 ・歯科技工士法	・歯科医師法について説明できる。 ・歯科技工士法について説明できる。	
3. /	・歯科口腔保健の推進に関する法律 ・医療法	・歯科口腔保健の推進に関する法律について説明できる。 ・医療法について説明できる。	
4. /	・医療関係職種	・医療関係職種について説明できる。	45 分
5. /	・その他の関係法規 1) 薬事関連法規 2) 地域保健関連法規 3) その他の衛生法規	・薬事に関連する法規について説明できる。 ・地域保健に関連する法規について説明できる。 ・関連する衛生法規について説明できる。	
6. /	・社会保障(1) 1) 社会保障 2) 社会保険 3) 医療保険	・社会保障制度について説明できる。	
7. /	・社会保障(2) 4) 介護保険 5) 年金保険 6) 雇用保険と労働者災害補償保険 7) 社会福祉	・社会保障制度について説明できる。	
8. /	・医療の動向	・医療の動向について説明できる。	

2年前期 講義

＜専門基礎分野＞ 科目名 社会福祉 講師名 浅見雅人 単位数 1

授業概要	児童福祉、障がい者福祉、老人福祉、介護保険の制度を含めて歯科衛生士が関連する社会福祉の全般の授業となる。書類様式はパワーポイントにて授業を進行。それと施設内での現状をビデオ視聴する時間を作り、授業内容を可視化していく。また、少子高齢化社会の中で歯科衛生士の需要が益々高まっている現状を関連付けながら、社会に求められているこの資格の必要性も伝えていく。
教科書	歯科衛生士教本 歯・健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度 第3版
副教材	社会福祉士高齢者に対する支援と介護保険制度（中央法規）、介護福祉士実務者研修テキスト（中央法規）子どもの権利と児童福祉法（信山社）、児童福祉法・児童虐待防止法のポイント（中央法規）介護福祉士受験ワークブック（中央法規）、福祉専門職のための意思決定支援ガイドブック（中央法規）
評価方法	定期試験にて評価

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. 5／11	憲法25条 生存権とは	日本国憲法 25 条の生存権では条文「すべての国民は健康で文化的な最低限の生活を営む権利を有する」と原点を意識し、普通に生きる権利を説明できる。	
2. 5／18	児童福祉法・児童虐待防止法・その他の制度について	現在の日本の児童福祉の現状を学び、主に児童虐待という社会問題ある現実を理解し、虐待を発見した際、どのような行動をするべきか説明できる。	
3. 5／25	障がい者福祉の大切な視点について	障がい者をマイナスだけでなく、いかにプラスの面が多いかを理解し、健常者及び障がい者が一緒に過ごせる共生社会の大切さに気づき、平等とは何かを説明できる。	
4. 6／8	介護保険の申請から要介護及び要支援の認定の流れについて	介護保険制度の創設の意義と高齢化社会がどのような方向性に向かっていくかと申請から利用に至るまでのプロセスを説明できる。	
5. 6／15	介護保険制度によるサービスの種類について	在宅サービスと施設サービスの大枠を確認し、市町村及び都道府県が中心に取り組んでいるサービス内容と各専門職と機関を説明できる。	
6. 6／22	地域間との連携と高齢者施設及び事業者について	老人福祉法との関連も含めながら、介護保険施設と在宅サービスの具体的に何が違うのかを認識し、地域間での連携のしくみを説明できる	
7. 6／29	他者との向き合う姿勢とは	人間として魅力的な評価を他者から受ける為には福祉の視点である対人相談援助スキルを学ぶことが重要であり、一般的援助と専門家としての対人援助とはなにが違うかを比較できる	
8. 7／6	社会福祉の総まとめ	いままで学んできた相談の受ける体制を総括し、説明できる。	まとめ 45分

2年前期 演習

＜専門基礎分野＞ 科目名 地域歯科保健活動論 講師名 工藤貴之 単位数 2

授業概要	域歯科保健活動の現状を理解し、口腔保健管理・口腔保健活動を実践していくための方法論および、歯科衛生士の役割について修得する
教科書	最新歯科衛生士教本 保健生態学（第3版） 保健情報統計学
副教材	
評価方法	定期試験（筆記）とし評価する

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. 4／14	地域保健の概要	地域社会と地域保健の概念および組織活動について説明できる	
2. 4／16	地域保健の概要	地域保健における行政の役割について説明できる	
3. 4／16	健康増進活動	8020 運動、健康日本 21（第二次）について説明できる	
4. 4／21	災害時の歯科保健	被災地における歯科保健活動について説明できる	
5. 4／23	国際歯科保健	途上国への歯科保援助について説明できる	
6. 4／23	母子歯科保健	妊産婦、乳幼児に対する口腔保健管理・保健指導について説明できる	
7. 6／24	学校歯科保健	学齢期の口腔保健教育・保健管理について学び、その組織活動について説明できる	
8. 6／30	産業歯科保健	労働者に対する口腔保健管理・保健指導について説明できる	
9. 7／1	成人歯科保健	成人保健制度について学び、成人期の口腔保健管理について説明できる	
10. 7／8	高齢者歯科保健	高齢者の口腔の特徴について説明できる	
11. 7／8	高齢者歯科保健	介護保険制度について説明できる	
12. 7／14	障害者歯科保健	障害者の現状を理解し、歯科保健管理について説明できる	
13. 7／15	歯科疾患の実態	歯科疾患実態調査、国民栄養・健康調査の結果について説明できる	
14. 7／15	保健統計の現況	保健医療統計（患者調査・国民医療費・医療施設調査等）について説明できる	
15. 9／1	疫学	疫学の種類を類別できる	

2 年後期 演習

＜専門基礎分野＞ 科目名 保健情報統計学 講師名 工藤貴之 単位数 2

授業概要	歯科疾患の把握をするうえで、データの集計、分析は重要である。この講義では歯科疫学の基礎から、その分析法としての統計学、集計、分析に関して行う。修得する
教科書	「最新歯科衛生士教本 保健情報統計学」 「最新歯科衛生士教本 保健生態学（第3版）」
副教材	2019 年版 歯科保健関係統計資料
評価方法	定期試験で評価する

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	保健統計と保健情報	EBM の手順を説明できる。	
2. /	う蝕の指数	DMF 指数などのう蝕指数について説明できる	TAKI
3. /	口腔清掃の指数	口腔清掃の評価法について説明できる	
4. /	歯周疾患の指数	歯周疾患の評価法について説明できる	
5. /	調査票作成法	調査票の作成法について説明できる	
6. /	口腔診査演習	集団検診での歯科衛生士の役割を説明できる	
7. /	調査票の集計	エクセルに調査票の内容を入力し、集計できる	
8. /	データの分析	集計した調査票のデータのグラフを描くことができる	
9. /	データの分析	集計した調査票のデータを表にして算出できる	
10. /	集団の特徴	集団の特徴を捉える方策を説明できる	
11. /	代表値と分散	基本統計量について説明できる	
12. /	平均値の差の検定	推定と検定、平均値の差の検定について説明できる	
13. /	カイ二乗	ノンパラメトリック検定について説明できる	
14. /	相関分析	相関係数を使った無相関の分析について説明できる	
15. /	まとめ	統計データの分析について説明できる	

2年後期 演習

＜専門基礎分野＞ 科目名 介護の基本 講師名 単位数 1

授業概要	・高齢者介護の基本的な知識（介護の現状から施設生活の様子など）の習得 ・介護技術の習得（車いす操作、ベッド・ユニットへの移乗動作、衣類の着脱等） ・高齢者の心理の理解（ホスピタリティの理解、共感的理解の実践と理解）
教科書	「こころとからだのしくみと生活支援技術」
副教材	PPT
評価方法	期末試験（筆記試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	介護の心構え	・福祉の考え方、支援に向かう心構えについて述べるができる。	
2. /	高齢者の心理	・介護現場の実際を踏まえた、介護の考え方を述べるができる。 ・衣類の着脱について安全安楽な方法を述べることができる。	
3	車いす操作法	・車いすの特徴を理解し安全安楽な操作方法を説明できる。 ・高齢者や障害者にとって安全安楽な方法で車いす操作ができる。	TAKI
4	トランスファー技術 衣類の着脱技術	・ベッド・ユニット⇄車いすの安全な移乗動作方法を説明できる。 ・ベッド・ユニット⇄車いすの安全安楽な移乗動作が実践できる。 ・高齢者や障害者にとって安全安楽な衣類の着脱の方法を実践できる。	BO1
5. /	認知症の理解	・認知症の考え方、認知症の方との接し方を述べるができる。	
6. /	ホスピタリティ トレーニング	ホスピタリティについて理解を深め、姿勢・態度・行動について考察することができる。	
7. /	共感的理解と 基本的態度の形成	・事例検討を通じて高齢者の心理について述べることができる。	
8. /	介護の基本のまとめ	・安心安楽を与えられる介護の考え方を具体的に述べるができる。	45 分

1 年前期 講義

＜専門分野＞ 科目名 歯科衛生士概論Ⅰ 講師名 佐々木ひろみ 単位数 1

授業概要	健康支援者としての歯科衛生士の業務、役割、活動の場、心構えを理解する。 歯科衛生過程の概要を理解する。
教科書	下記「持ち物」に記載
副教材	配布プリント
評価方法	期末試験
履修上の注意点	テキストはないため、歯科衛生士概論用のプリントファイルを用意し、テキストとして扱う。プリントは2年、3年でも継続して使用するので授業順にファイルしておく。 全時間出席が原則。 教授要綱は、毎回持参すること。

指導計画

回・月/日	項目	到達目標	持ち物	備考
1. 4/20	歯科衛生士業務 1	- 健康の意味を述べる。 - QOL と健康との関係を述べる。 - 健康をサポートするために歯科衛生士が行うことを説明できる。 - 歯科衛生士の業務（歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導）の概要を知る。	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」	
2. 4/27	歯科衛生士業務 2	- 歯科衛生士の誕生の時期と経緯を説明できる。 - 歯科衛生士法、第1条、第2条、第3条の要点を説明できる。 - 歯科衛生士法、第2条、第3条の改訂の時期と理由を説明できる。 - 業務独占、名称独占の意味を説明できる。 3大業務を業務独占、名称独占に分類できる。	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」	
3. 5/11	歯科衛生士の素養	歯科衛生士としての心構えと身につけておかなければならない態度や会話について理解できる。		
4. 5/14	歯科衛生士教育	- 歯科衛生士教育の変化と現在の教育内容を説明できる。 - 国家試験の概要を知る。		
5. 5/20	医療・歯科医療の特性と歯科衛生士の責務	- 医療・歯科医療の特性を知る。 - 歯科衛生士の責務について知る。 - 専門職を目指し学ぶ者としての心構えを考える。		
6. 6/11	歯科衛生士の活動の場 1	- 歯科衛生士の就業者数の現状を知る。 - 歯科衛生士が勤務する場とそこにおける業務の概要を説明できる。 （歯科臨床・地域歯科保健）	「歯科保健関係統計資料」 電卓	
7. 7/1	歯科衛生士の活動の場 2	- 歯科臨床で活動している歯科衛生士から歯科診療の場での役割を理解する。 - 自分の目指す歯科衛生士のイメージを膨らませることができる。		
8. 7/5	歯科衛生過程	- 歯科衛生過程の定義・目的を述べる。 - 歯科衛生過程を構成する6つの要素を挙げる。 - 歯科衛生過程の6つの要素の概要を述べる。 - 情報収集の手段・内容を挙げる。 - 情報の種類（主観的情報、客観的情報）を説明できる。	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」	

担当教員は他校での教職経験や5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

2年後期 講義

＜専門分野＞ 科目名 歯科衛生士概論Ⅱ（歯科衛生過程） 講師名 佐々木ひろみ 単位数 1

授業概要	歯科衛生士として科学的根拠に基づいた業務を行うために、歯科衛生過程の理論と実際を理解する。
教科書	「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」
副教材	プリント
評価方法	期末試験（筆記試験）
履修上の注意点	プリントは歯科衛生士概論用のプリントファイルに授業順にファイルしておく。 歯科衛生過程は連続で演習をおこなうため、欠席をすると次の回の理解ができなくなる。自己管理に留意し欠席をしないこと。
持ち物	3色ボールペン プリントファイル（配布プリント一式）

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	演習プリント
1. /	歯科衛生過程理論	・歯科衛生過程の目的を説明できる ・歯科衛生過程の5つのプロセス、6つの構成を説明できる ・Darby と Walsh のヒューマンニーズ概念モデルを理解できる	
2. /	アセスメント(1) 情報の整理・分類	・ヒューマンニーズ概念モデルに沿った情報の整理・分類法を説明できる	情報の整理・分類
3. /	アセスメント(2) 情報の解釈・分析	・情報の分析、解釈の方法を説明できる ・「データ不足」「強み」の意味を説明できる	情報の解釈・分析
4. /			
5. /	歯科衛生診断(1)	・歯科衛生診断と歯科診断の違いを説明できる ・歯科衛生診断の3つのタイプを説明できる ・歯科衛生診断の構成を説明できる	歯科衛生診断
6. /	歯科衛生診断(2) 歯科衛生計画(1)	・歯科衛生診断の優先順位の決め方を説明できる ・長期目標、短期目標の意味を説明できる ・長期目標、短期目標の立て方を説明できる	計画：目標設定
7. /	歯科衛生計画(2)	・歯科衛生計画の立て方を説明できる	計画：計画立案
8. /	歯科衛生介入 歯科衛生評価	・歯科衛生介入の記録方法を説明できる ・歯科衛生評価の方法を説明できる	45 分

担当教員は他校での教職経験や5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

3年前・後期 講義

＜専門分野＞ 科目名 キャリアデザイン 講師名 佐々木ひろみ 単位数 1

授業概要	歯科衛生士の専門能力を用いて社会貢献し、自ら主体的に判断してキャリア形成していくために、歯科衛生士が連携する他職種、医科歯科連携、社会人基礎力、生涯研修の必要性和手段について知る。
教科書	下記「持ち物」に記載
副教材	配布プリント
評価方法	期末試験
履修上の注意	プリントは授業順にファイルしておく。 全時間出席が原則、休まないように健康管理に気をつけること。 欠席者は配布プリントを翌登校日に直接教員まで受け取りに来る。原則補講は行わないが、補講の必要がある場合は教員から指示をする。 教授要綱は、毎回持参すること。

指導計画

回・月/日	項目	到達目標	持ち物	備考
1. 4/22	社会人基礎力1	- 社会人基礎力の必要性を説明できる。 - 社会人基礎力（3つの能力、12の能力要素）の意味を理解できる。 - 歯科衛生士の社会人基礎力行動例を理解できる。 - 現時点の社会人基礎力を自己評価する。 - 自分の重点行動目標を立てる。		
2. 5/6	医療倫理	- 医療従事者の倫理にかかわる規定・宣言を知る。 - 歯科衛生士国家試験に向け、歯科衛生士概論の知識を再確認し、理解の修正をする。		
3. 5/21	他職種の理解と連携1	- 医療、保健、福祉、教育における職種と業務を挙げる。 - チーム医療、連携、協働の意味を述べる。 - 歯科衛生士の活動の場とそこで働く職種を挙げる。 - チームアプローチの意義を述べる。		
4. 6/4	他職種の理解と連携2 (特別講演 60分含む)	- 多職種連携の現状と意義を知る。 - 多職種連携における歯科衛生士の役割を理解できる。 - 多職種連携の必要性を理解できる。		
5. 7/8	社会人基礎力2	- 前回立てた目標の達成を自己評価する。 - 他者評価・他者アドバイスを次の目標を立てる上で参考にすることができる。 - 重点行動目標を立て直す。 - 社会人基礎力についての考えを述べる。	前回資料	
6. 後期	卒後のステップアップ	現場で働く歯科衛生士から研修体験や仕事がステップアップしてきた経緯を聞き、自分自身の目標を考える。		
7. 後期	社会人基礎力3 歯科衛生士の卒後研修	- 臨床実習を終え、社会人基礎力の再評価をする。 - 就職初年度に必要な社会人基礎力の行動例を考える。 - 卒後研修の場や方法を知る。	前回資料	

担当教員は他校での教職経験や5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

1 年後期 講義

＜専門分野＞ 科目名 保存修復学 講師名 単位数 1

授業概要	保存修復治療は、日常的に高頻度で行われる歯科治療の一つです。近年、新しいテクノロジーが臨床歯科医学の世界にも次々と導入され、保存修復治療もダイナミックに変化しています。新旧の治療法それぞれの特徴をおさえながら、ミニマルインターベンションコンセプトの重要性を学習します。国家試験にも多く出題される分野でもありますので、しっかり学習を進めましょう。授業全体を通して、保存修復学で扱う疾患およびその治療法について学習し必要な知識を修得します。
教科書	「最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」
副教材	配布プリント
評価方法	期末試験（筆記試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	保存修復の概要	保存修復学および保存修復治療で扱う硬組織疾患の種類と病態を説明できる	
2. /	保存修復の概要	診療ステップと前準備を理解し、窩洞の名称と窩洞の形態を説明できる	
3. /	直接法修復①	歯の切削や窩洞形成、歯髄保護の重要性について説明できる	
4. /	直接法修復②	コンポジットレジン組成と種類、接着の基礎について説明できる	
5. /	直接法修復③	グラスアイオノマー修復について説明できる	
6. /	間接法修復①	メタルインレー修復について説明できる	
7. /	間接法修復②	歯冠色審美修復間接治療について説明できる	
8. /	保存修復の最前線	デジタル技術や最新の接着技法を用いた最新の治療法について、従来法との違いを比較し説明できる	45 分

1 年後期 講義

<専門分野> 科目名 歯内療法学 講師名 前田朋己 単位数 1

授業概要	歯髓疾患および根尖性歯周組織疾患の診察、検査、診断、処置、予防を行うために必要な知識を身につける。
教科書	「最新歯科衛生士教本（歯の硬組織・歯髓疾患）保存修復・歯内療法」
副教材	
評価方法	筆記試験（期末試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1 /	歯髓疾患および根尖性歯周組織疾患の概要	歯髓および根尖性歯周組織疾患の原因、症状、処置方針を説明できる。	
2. /	歯髓保存療法	歯髓保存療法の概略と使用する器具・薬剤を説明できる。	
3. /	歯髓除去療法(1)	歯髓除去療法の概略と使用する器具・薬剤を説明できる。	
4. /	歯髓除去療法(2)	歯髓除去療法の概略と使用する器具・薬剤を説明できる。	
5. /	根管治療 歯内療法における安全対策	根管治療の概略と使用する器具・薬剤を説明できる。 歯内療法における偶発症の予防と対処法を説明できる。	
6. /	根管充填	根管充填の概略と使用する器具・薬剤を説明できる。	
7. /	外科的歯内療法 歯の外傷	外科的歯内療法の名称、症例、および治療法を説明できる。歯の外傷の種類、治療法を説明できる	
8. /	まとめ		45 分

1 年後期 講義

＜専門分野＞ 科目名 歯周病学 講師名 水谷幸嗣・松浦孝典 単位数 2

授業概要	歯周病の病態・病因について学習し、歯周治療の目的、理論、実際を理解する
教科書	「最新歯科衛生士教本 歯周病学（第2版）」
副教材	
評価方法	期末試験（筆記試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	歯周治療とは	歯周治療がどのような治療かをイメージすることができる	水谷
2. /	正常な歯周組織の構造・機能	正常な歯周組織の構造・機能を説明できる	水谷
3. /	歯周病の分類	歯周病に罹患した歯周組織について類別できる	松浦
4. /	歯周病の原因	歯周病の病因について説明できる	水谷
5. /	歯周治療の進め方	歯周治療の流れを説明できる	松浦
6. /	歯周病の診査（1）	歯周病の診査方法、検査について説明できる	松浦
7. /	歯周病の診査（2） 歯周基本治療（1）	歯周病検査（咬合、画像診断）について説明できる。歯周基本治療の概要を説明できる	水谷
8. /	歯周基本治療（2）	プラークコントロールの方法・効果を説明できる	松浦
9. /	歯周基本治療（3）	スケーリング・ルートプレーニング、薬物療法の方法・効果を説明できる	水谷
10. /	歯周外科治療（1）	歯周外科の適応、器具、術式を説明でき、治療形態については再生療法と比較できる	松浦
11. /	歯周外科治療（2）	歯周形成外科、根分岐部病変、歯内歯周病変について分類と治療法について説明できる	水谷
12. /	口腔機能回復治療	咬合性外傷、固定法、歯周 - 矯正、インプラント治療、インプラント周囲炎について説明できる	水谷
13. /	ペリオドンタルメディシン	歯周病と関係の深い全身疾患について説明できる	松浦
14. /	メンテナンス	メンテナンスの方法、重要性について説明できる	松浦
15. /	症例提示・まとめ	歯周治療について、初診からメンテナンスまでの臨床症例を通じて総括的に述べることができる	水谷

1 年後期 講義

＜専門分野＞ 科目名 歯科補綴学 講師名 高草木 謙介 単位数 1

授業概要	歯科補綴学に関する検査と診断、補綴治療計画の立案、治療方法と材料、実際の診療の流れ、さらに術後のメンテナンスに至るまで、診療の基礎と歯科衛生士の役割を学ぶ
教科書	「最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常Ⅰ 歯科補綴（第2版）」
副教材	配布プリント
評価方法	授業ごとの確認テスト、期末試験、出席などを基に総合的に評価する

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	歯の欠損に伴う障害	歯を失った患者の病態について、機能と形態の側面から説明できる	
2. /	検査・診断と補綴装置の構造	検査方法と診断を理解し、適した補綴装置について説明できる	
3. /	クラウンブリッジとインプラント	固定性の補綴治療について、治療の流れと使用する材料を説明できる	
4. /	部分床義歯	部分床義歯について、治療の流れと使用する材料を説明できる	
5. /	全部床義歯とオーバーデンチャー	全部床義歯とオーバーデンチャーについて、治療の流れと使用する材料を説明できる	
6. /	合併症と患者指導	補綴治療に際し、留意すべき患者の全身疾患と現病歴、社会背景を説明できる	
7. /	補綴治療後のメンテナンス	補綴治療後に起こる口腔内の変化、補綴装置の問題とそれらへの対処法を説明できる	
8. /	補綴治療の役割	補綴治療の現場と歯科衛生士に求められる役割を説明できる 講義内容の補充、まとめ	45 分

1 年後期 講義

＜専門分野＞ 科目名 口腔外科学 講師名 小牧基浩 単位数 1

授業概要	顎・口腔領域に生じる疾患の特徴、診断法、治療法を基礎（口腔解剖学、病理学、放射線学等で学習）と関連づけながら理解し、患者さんの苦痛、精神状態を知り業務を行うことができる歯科衛生士を目指しましょう！
教科書	「最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔学」
副教材	関連する基礎歯科医学の教本（各自参照）
評価方法	授業終了時の小テスト、期末試験（筆記試験）と出席状況等を加味し総合的に評価する。

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	先天異常、発育異常と口腔外科診療 p19-33	歯の異常、軟組織の異常、顎の異常、口唇裂・口蓋裂と治療法について説明できる。	
2. /	顎・口腔領域の損傷・機能障害と治療法 p34-49	軟組織の損傷、歯と歯槽の外傷、顎骨骨折、顎関節疾患と治療法について説明できる。	
3. /	顎・口腔領域の炎症性疾患 p80-88	病理学と結びつけて炎症を説明できる。歯周組織、顎骨、顎骨周囲組織への炎症の広がりを、原因と口腔解剖学からイメージできる。	
4. /	口腔粘膜病変 視診で気付けるイメージづくり p50-79	口腔粘膜の特徴を理解し、粘膜疾患の基本的症状、全身疾患との関連が説明できる。「何か変」と気付ける歯科衛生士になる。	
5. /	口腔粘膜病変 知識の整理と業務への応用 p50-79	各種口腔粘膜疾患の特徴と治療法 何に気をつけて歯科衛生士業務をすべきなのか考えられる。	
6. /	唾液腺疾患 p112-121	唾液腺の種類（部位）と機能が説明できる。唾液腺の炎症性疾患、分泌異常、唾石症、腫瘍の症状と治療法が説明できる。	
7. /	顎・口腔領域の嚢胞性疾患 p89-97	発生原因（どこに由来するのか）を知り嚢胞の構造をイメージできる。嚢胞の発育は緩慢で無痛性であることを知り、その治療法が説明できる。	
8. /	顎・口腔領域の腫瘍ならびに腫瘍類似疾患 p98-111	炎症による腫脹と腫瘍との違いはなにか？腫瘍とは何か、悪性と良性は何が違うのか、発生する組織による腫瘍分類、進行程度による分類（TNM 分類）を説明できる。	
9. /	口腔領域の神経疾患 p122-129	神経は運動と知覚を司る。顎・顔面領域の神経の種類と機能を知り、神経痛、神経麻痺がどのような症状を呈するかイメージできる。	
10. /	口腔外科の概要 p2-18 口腔外科診療の実際 p130-171	口腔外科で扱う疾患、口腔に症状を呈する全身疾患、治療に影響を与える基礎疾患を理解する。また、清潔と不潔、滅菌と消毒の違いが説明でき、口腔外科診療における歯科衛生士の役割を知る。	

1 年後期 講義

＜専門分野＞ 科目名 小児歯科学 講師名 単位数 1

授業概要	著しい成長発達変化のみられる小児に対し歯科衛生士としてその職務を遂行するために必要な小児の身体的・心理的特徴を理解し、さまざまな口腔疾患の成因と処置・治療法の補助を習得する。
教科書	「最新歯科衛生士教本 小児歯科」
副教材	
評価方法	期末試験（筆記試験）・出席状況

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	小児歯科学概論 心身の発育 小児の生理的特徴	小児歯科学の意義について説明できる。 小児の身体的発育について説明できる。 器官の発育について説明できる。 小児の運動、精神の発達について説明できる。 生理的年齢について説明できる。 小児の生理的特徴について説明できる。 口腔機能の発達について説明できる。	
2. /	顔面頭蓋の発育 歯の発育とその異常	小児の頭蓋および顎の発育について説明できる。 顔面頭蓋発育の分析法について説明できる。 歯の正常発育時期を説明できる。 各期における歯の発育障害について説明できる。 歯の萌出障害を説明できる。	
3. /	歯列・咬合の発育と異常	小児の歯列と咬合の発育について説明できる。 小児の歯列と咬合の発育異常について説明できる。	
4. /	小児の歯科疾患 1 （う蝕・歯周疾患）	乳歯と幼弱永久歯の特徴について説明できる。 乳歯う蝕について説明できる。 幼弱永久歯う蝕について説明できる。 罹患型分類について説明できる。 小児う蝕の予防法について説明できる。 定期診査の意義について説明できる。 小児にみられる歯周疾患について説明できる。	
5. /	小児の歯科疾患 2 （軟組織の異常と疾患、 口腔に関連の深い小児疾患）	小児に多い口腔軟組織疾患について説明できる。 口腔症状を示す小児感染症について説明できる。 唇顎口蓋裂など先天異常の概要を説明できる。 口腔症状を示す遺伝性疾患について説明できる。 歯科治療時に留意すべき小児疾患について説明できる。	
6. /	小児患者への歯科的対応 小児歯科診 1 （診査、局所麻酔）	小児患者への歯科的対応法について説明できる。 小児患者に対する診査の進め方について説明できる。	
7. /	小児歯科診 2 （歯冠修復、歯内療法、外傷）	小児患者に対する歯冠修復の概要について説明できる。 小児患者に対する歯内療法の概要について説明できる。 小児患者に対する外傷処置の概要について説明できる。	
8. /	小児歯科診療 3 （外科的処置、咬合誘導）	小児患者に対する外科的処置の概要について説明できる。 小児患者に対する薬物療法の要点について説明できる。 小児患者に対する咬合誘導の概要について説明できる。	45 分

1 年後期 講義

＜専門分野＞ 科目名 歯科矯正学 講師名 鈴木聖一・辻 美千子 単位数 2

授業概要	歯科矯正学の基礎と臨床に関わる知識を修め、臨床・臨床実習で実践できる幅広い応用力を身につける
教科書	「最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正」
副教材	プリント
評価方法	期末テスト（筆記試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	歯科矯正治学の定義と目的	歯科矯正学の定義、および歯科矯正治療の意義と目的、歴史について説明できる。	鈴木
2. /	成長発育 1	全身および顎顔面領域における成長発育の部位と時期、および成長のパターンについて説明できる。	鈴木
3. /	成長発育 2	口腔および歯列の成長発育の場、時期、様相について説明できる。	鈴木
4. /	正常咬合・不正咬合	正常咬合の定義、および不正咬合の種類とそれぞれの特徴について説明できる。	鈴木
5. /	不正咬合の原因	様々な不正咬合の原因、生体との関係、および不正咬合成立の経過について説明できる。	鈴木
6. /	矯正診断	矯正診断に必要な検査と分析法、および治療方針の立案に必要な基礎知識について説明できる。	鈴木
7. /	口腔習癖	口腔習癖の原因、弊害、および筋機能療法などの対処法について説明できる。	鈴木
8. /	矯正臨床基礎	歯が移動する機構、矯正力を歯に伝えるメカニズム、矯正治療の流れについて説明できる。	鈴木
9. /	材料・器具	矯正治療で使用される材料、器具の名称および使用目的について説明できる。	鈴木
10. /	矯正装置	矯正治療で用いられる矯正装置の名称、適応症例および効果について説明できる。	鈴木
11. /	口唇口蓋裂、先天異常	口唇口蓋裂と各種先天異常に関連した不正咬合の症状や特徴および治療法について説明できる	辻
11. /	後戻りと保定、顎変形症	矯正治療後の後戻りと保定の概念、顎変形症の症状と外科的矯正について説明できる。	鈴木
13. /	矯正治療 1	矯正治療の実際を知る。	辻
14. /	矯正治療 2	矯正治療の実際を知る。	辻
15. /	矯正治療の介助	矯正治療における介助の要点と実際について説明できる。	鈴木

2年前期 講義

＜専門分野＞ 科目名 障害者歯科学 講師名 宮城 敦 単位数 1

授業概要	障害者の歯科医療では治療や指導および患者管理に特別の配慮を必要とする。その際に必要な身体的、知的、および精神的特徴と特有の口腔機能障害について理解する。そして私たちと同じ社会の一員でもある障害者の生活を知り、歯科衛生士として適切な態度と行動を習得する。
教科書	「最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版」医歯薬出版
副教材	配布プリント
評価方法	本試験（100点満点：国家試験形式）（100%）評価 ただし、授業参加度、小テスト、およびレポートにより増減点 試験に対するフィードバックは掲示で行う。

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. 4／14	障害者および障害者歯科の定義、現状、歴史	障害者および障害者歯科の定義・歴史を説明できる。 ノーマライゼーションについて説明できる。 チームアプローチを説明できる。	
2. 4／21	障害者の歯科医療と患者の行動調整	障害者歯科で実践する種々の行動調整法を説明できる。	
3. 5／12	視覚・聴覚障害およびてんかんと歯科的対応	視覚障害・聴覚障害とその歯科的対応について説明できる。 てんかんの症状とその歯科的対応について説明できる。	
4. 5／19	知的障害およびダウン症候群と歯科的対応	知的障害の症状と歯科的対応について説明できる。 ダウン症候群の症状と歯科的対応について説明できる。	
5. 5／26	発達障害と歯科的対応	学習障害、注意欠如多動性障害および自閉症の症状と歯科的対応を説明できる。	
6. 6／ 2	脳性麻痺と歯科的対応	脳性麻痺の症状と歯科的対応について説明できる。	
7. 6／ 9	重症心身障害、進行筋ジストロフィーを歯科的対応	重症心身障害、進行筋ジストロフィーの症状と歯科的対応を説明できる。	
8. 6／16	障害者への歯科保健指導	障害者への歯科保健指導について説明できる。	45分

2年前期 講義

＜専門分野＞ 科目名 高齢者歯科学

講師名 高城大輔

単位数 1

授業概要	超高齢社会に突入し、歯科医療従事者に要求される知識や技能が変化している。歯科疾患に対する知識のみならず、口腔全体の健康ひいては口腔を通じて全身の健康に寄与することが求められ、それに対応すべく高齢者歯科学の概念が確立された。本講座では高齢者歯科学についての知識や技能の基礎を修得する。
教科書	医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版
副教材	なし
評価方法	授業の出席と態度、期末試験成績を総合して評価する。

授業計画

回・月/日	項目	到達目標	備考
1. 4/12	高齢者の社会環境 高齢者のための社会福祉制度	1. 高齢者に関わる人口統計や高齢者を支える取り組みについて説明できる 2. 高齢者に関わる社会保障制度を説明できる	
2. 4/19	全身および口腔内の加齢変化	1. 加齢による肉体的・精神的・社会的な影響を説明できる 2. 口腔機能低下症・オーラルフレイルについて説明できる	
3. 4/26	高齢者のアセスメント	1. 介護現場において頻用されるアセスメント指標について列挙できる 2. 医療現場において頻用されるアセスメント指標について列挙できる	
4. 5/10	歯科治療時に注意が必要な全身疾患	1. 高齢期に多い、歯科治療時に配慮が必要な全身疾患を列挙できる 2. 各疾患における歯科治療時の注意点を説明できる	
5. 5/17	訪問歯科診療	1. 訪問歯科診療について説明できる 2. 患者の状態やライフステージに配慮した歯科診療について説明できる	
6. 5/24	訪問診療における口腔衛生管理と関係職種	1. 訪問診療における歯科衛生士の意義を説明できる 2. 訪問診療での口腔衛生管理について、具体的な方法を説明できる 3. 患者の健康を支える関連職種について列挙できる	
7. 5/31	摂食嚥下リハビリテーション	1. 摂食嚥下のプロセスについて説明できる 2. 摂食嚥下障害について説明できる 3. 摂食嚥下リハビリテーションにおける診査診断と対応方法について説明できる	
8. 6/7	認知症と歯科診療	1. 認知症の類型や症状について説明できる 2. 認知症患者の歯科診療時の留意点について説明できる	45分

2 年前期 演習

<専門分野> 科目名 歯科放射線学 講師名 島田 学 単位数 1

授業概要	歯科における放射線診断は非常に有効である。 ただし、十分な知識がなければ患者に不安を与えたり、余計な被曝を与えることにもなる。 本講義を通して臨床の現場で患者に十分説明できる知識を持ち、安全に利用できる技術を学ぶ。
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科放射線学
副教材	なし
評価方法	定期試験による評価

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. 4／13	歯科医療と放射線	放射線の基礎知識を理解する	講義
2. 4／20	X線画像の形成	X線の発生と性質、画像の形成原理を説明できる	講義
3. 4／27	歯科におけるX線検査	X線撮影機器とフィルムの種類を説明できる	講義
4. 5／11	口内法X線撮影の実際と 歯科衛生士の役割	口内法X線撮影法の種類とその特徴を説明できる	講義
5. 5／18	パノラマX線撮影の実際と 歯科衛生士の役割	パノラマX線写真撮影法を説明できる	講義
6. 5／25	X線写真の読影	トレースと読影ができるようになる	実習 203
7. 6／8	写真処理と画像保管の実際	フィルムの現像方法と管理方法を説明できる	講義
8. 6／15	放射線治療と口腔管理	放射線の生物学的影響と放射線治療を説明できる	講義 45 分

2年後期 演習

＜専門分野＞ 科目名 歯科麻酔・全身管理・救急処置 講師名 今泉うの 単位数 2

授業概要	歯科衛生士業務を行う為に必要な全身管理と局所麻酔法、精神鎮静法、全身麻酔法、救急処置に必要な基礎知識の確認と使用薬物、技術を修得する。
教科書	「最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔」
副教材	
評価方法	マークシート形式による多肢選択問題による筆記試験

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	麻酔のための基礎知識① 神経；疼痛のメカニズム	神経系の分類と麻酔を理解するための疼痛に関わる神経経路を説明できる。	
2. /	麻酔のための基礎知識② 神経；中枢鎮痛薬と末梢性鎮痛薬の薬理作用	全身麻酔薬と局所麻酔薬の薬理作用から、疼痛メカニズムの違いについて説明できる。	
3. /	麻酔のための基礎知識③ 心臓・循環；心臓の作用と血圧のメカニズム	心臓の作用と血圧について説明できる。	
4. /	麻酔のための基礎知識④ 肺・呼吸；アルカローシスとアシドーシス	呼吸とアルカローシスとアシドーシスについて説明できる。	
5. /	麻酔のための基礎知識⑤ バイタルサイン	バイタルサインの基礎について説明できる。	
6. /	局所麻酔薬の基礎	局所麻酔薬の薬理作用について説明できる。	
7. /	局所麻酔薬の臨床	歯科における局所麻酔薬の臨床の実際について説明できる。	
8. /	精神鎮静法・全身麻酔薬の基礎	精神鎮静法・全身麻酔薬の薬理作用について説明できる。	
9. /	精神鎮静法・全身麻酔薬の臨床	歯科における精神鎮静法・全身麻酔薬の臨床の実際について説明できる。	
10. /	歯科治療時における全身の偶発症①	過換気症候群、局所麻酔中毒、血圧上昇について病態、対処法、使用薬剤、予防法を説明できる。	
11. /	歯科治療時における全身の偶発症②	神経原性ショック、血管迷走神経 反射、アナフィラキシーショック、出血性ショック、仰臥位低血圧症候群について病態、対処法、使用薬剤、予防法を説明できる。	

12. /		バイタルサインと 救急蘇生法	バイタルサインの取り方と救急蘇生法について 説明できる。	
13. /		まとめ(補充授業含む) ・復習テスト		
14	2-1 /	救急法	救急法実習 (東京都防災救急協会普通救命講習)	TAKI 白衣の パンツ着 用
15	2-2 /			

1 年前期 実習

＜専門分野＞科目名 歯科予防処置Ⅰ 講師名 田澤栄美・星貴子 単位数 前・後期 1

授業概要	・口腔内の状態を把握するために必要な基本知識を修得する。 ・口腔内の状態を把握するために必要な診査器具の操作方法を理解し、技術を修得する。 ・歯石除去を行うために必要な器具の操作方法を理解し、技術を修得する。 ・履修上の注意点ー技術的な手技は毎日の積み上げで上達するものであるから、練習を怠らない。 実習時は身だしなみを整える。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。 持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。
教科書	最新 歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」、「歯周病学 第2版」
副教材	プリント（担当教員ごとに整理、ファイリングし、テキストと同様に扱う） 授業に必ず持参
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予防衣	白衣	備考
1. /	歯科予防処置 総論 1	・歯科予防処置、う蝕予防処置を実施するためにその概要について述べることができる。 ・歯科予防処置の法的位置づけを説明できる。	オンライン	テキスト「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」、「歯周病学第2版」			田澤
2. /	歯科予防処置 総論 2	・歯科予防処置、う蝕予防処置を実施するために必要な知識を述べるができる。		テキスト「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」、「歯周病学第2版」、総論 1 で配布したプリント			
3. /	歯周診査 器具の操作 1	・探針の使用目的を説明できる。 ・器具が正しく把持できる。 ・机上で探針の基本操作ができる。 ・モデルホルダーを使用できる。		スクレーパー（中に診査器具一式（ミラー、ピンセット、探針、プローブ）を入れてくる）、黒油性マジック、顎模型、モデルホルダー			星
4. /	歯周診査 器具の操作 2	・顎模型上で探針の操作ができる。		スクレーパー（診査器具一式）、顎模型舌模型装着してくる）、頬粘膜マックス、モデルホルダー			
5. /	歯科予防処置 総論 3	・マニキンの取り扱いを述べるができる。 ・マニキンの準備、片付けができる。 ・マニキンを正しく位置づけできる。	203	顎模型、ドライバー、頬粘膜マックス、マニキン用カバーシート	○		田澤
6. /	歯周診査 器具の操作 3	・プローブの使用目的を説明できる。 ・プローブの操作ができる。		スクレーパー（診査器具一式）、顎模型（舌模型装着、下顎のみ透明歯肉に替えてくる）、頬粘膜マックス、マニキン用カバーシート			
7. /	歯周診査 器具の操作 4	・デンタルミラーの使用目的を説明できる。 ・マニキン上でデンタルミラーの操作ができる。		顎模型（舌模型装着）、スクレーパー（探針、ピンセット、プローブ、ミラー）、プリントファイル、頬粘膜マックス、マニキン用カバーシート			星
8. /	歯周診査 器具の操作 5	・マニキン上で、デンタルミラーとプローブの操作ができる。		スクレーパー（診査器具一式）、顎模型（舌模型装着、下顎のみ透明歯肉）、頬粘膜マックス、マニキン用カバーシート			

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

1 年後期 実習

＜専門分野＞ 科目名 歯科予防処置Ⅰ 講師名 美馬寿恵・星 貴子 単位数 前・後期 1

授 業 概 要	・口腔内の状態を把握するために、歯式の記録方法・観察方法を理解する。 ・患者への配慮を身につける。 ・歯石除去を行うために必要な器具の操作方法を理解し、技術を修得する。 ・履修上の注意点－技術的な手技は毎日の積み上げで上達するものであるから、練習を怠らない。実習時は身だしなみを整える。 ・全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。 ・持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次の指示をする。
教 科 書	最新 歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」、「歯周病学 第2版」
副 教 材	プリント（担当教員ごとに整理、ファイリングし、テキストと同様に扱う） 授業に必ず持参
評 価 方 法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予 防 衣	白 衣	備 考
1. /	口腔観察基礎知識1	・口腔内の状態を把握するために、歯式の記録法・観察法を述べることができる。					
2. /	口腔観察基礎知識2	・口腔内を観察することができる。 ・自分の口腔内の状態を略記号で記録することができる。		記録用紙、手鏡（置けるタイプ）、器具拭き用タオル、手拭き用タオル、ティッシュペーパー、プリントファイル、テキスト「口腔解剖学」、筆記用具（色鉛筆含む）			
3. /	口腔観察基礎知識3	・口腔観察実習の目的・内容を説明できる。					
4. /	口腔観察基礎実習1	・正確に、安全に口腔内観察（歯式記録、咬合状態、歯肉の状態・歯垢・歯石について）ができる。	203	実習に必要な器具、記録用紙、プリント、筆記用具	○		
5. /	口腔観察基礎実習2						
6. /	口腔観察の記録	・口腔内観察したものを正確に記録できる。					
7. /	スクレーピング基礎知識(45分)	・スクレーパーの種類、使用目的を説明できる。		スクレーパー一式			
8. /	スクレーパー基本操作1	・スクレーパーの持ち方、動かし方が説明できる。	203	スクレーパー一式、顎模型（下顎、透明歯肉）、歯ブラシ（顎模型清掃用）新しいもの、エデックス、人工歯石セット	○		
9. /	スクレーパー基本操作2	・鎌型スクレーパーの使用原則を説明できる。		スクレーパー一式、顎模型、顎模型清掃用歯ブラシ、ティッシュペーパー、エデックス、人工歯石セット			
10. /	スクレーパー基本操作3	・スクレーパーの基本操作ができる。 ・固定点を中心にした腕運動での操作ができる。		スクレーパー一式、顎模型、頬粘膜ボックス、顎模型清掃用歯ブラシ、ティッシュペーパー			
11. /	スクレーパー基本操作4	・スクレーパーの基本操作ができる。 ・鏡面での操作ができる。		スクレーパー一式、顎模型、頬粘膜ボックス、顎模型清掃用歯ブラシ、ティッシュペーパー			
12. /	スクレーパー基本操作5	・スクレーパーの基本操作ができる。 ・鏡面での操作ができる。		スクレーパー一式、顎模型、頬粘膜ボックス、顎模型清掃用歯ブラシ、ティッシュペーパー			
13. /	スクレーパー基本操作6	・スクレーパーの基本操作ができる。 ・部位に適した術者の位置、マニピュレーターの位置づけができる。		スクレーパー一式、顎模型、頬粘膜ボックス、顎模型清掃用歯ブラシ、ティッシュペーパー			
14. /	スクレーパー基本操作7	・スクレーパーの基本操作ができる。 ・部位に適した術者の位置、マニピュレーターの位置づけができる。		スクレーパー一式、顎模型、頬粘膜ボックス、顎模型清掃用歯ブラシ、ティッシュペーパー			

担当教員は他校での教職経験や5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

1 年後期 講義

＜専門分野＞ 科目名 歯科予防処置Ⅱ 講師名 美馬寿恵

単位数 後期 1

授業概要	・う蝕予防処置を行う上での基盤となる知識を修得する。 ・安全にう蝕予防処置を行うために必要な患者配慮について学ぶ。 ・履修上の注意 -持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新 歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」「保健生態学 第3版」
副教材	プリント（ファイリングし、テキストと同様に扱う） 授業に必ず持参
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予防衣	白衣	備考
1. /	う蝕予防の基礎1	・う蝕予防処置の概要を説明できる。 ・フッ化物の効果が理解できる。		「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「保健生態学」			美馬
2. /	う蝕予防の基礎2	・フッ化物の基礎について説明できる。		「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「保健生態学」			
3. /	う蝕予防の基礎3	・全身的・局所的なフッ化物の応用法を述べる事ができる。 ・フッ化物歯面塗布法について説明できる。		「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「保健生態学」			
4. /	う蝕予防の基礎4	・フッ化物配合歯磨剤・フッ化物洗口法について説明できる。		「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「保健生態学」			
5. /	う蝕予防の基礎5	・フッ素の急性中毒、慢性中毒について説明できる。 ・急性中毒発現のフッ化物量が算出できる。		「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「保健生態学」			
6. /	う蝕予防の基礎6	・フッ化物の取り扱いが適切に行える。	203	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「保健生態学」	○		
7. /	歯科予防処置まとめ (135分)	・代替甘味料の種類と特長を説明することができる。 ・歯科予防処置に必要な知識を述べる事ができる。		「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「保健生態学」			

担当教員は他校での教職経験や5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

2年前期 実習

＜専門分野＞ 科目名 歯科予防処置Ⅲ 講師名 星貴子・美馬寿恵 単位数 1

授業概要	・歯科予防処置を行う上で使用するスケーラーの取り扱いについて学ぶ。 ・う蝕予防処置を行う上での基盤となる知識を修得する。 ・安全にう蝕予防処置を行うために必要な患者配慮について学ぶ。 ・履修上の注意 持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。 実習時は身だしなみを整える。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新 歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」「保健生態学第2版」
副教材	配布プリント（担当教員ごとに整理、ファイリングし、テキストと同様に扱う） 授業に必ず持参
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予 防 衣	白 衣	備 考
1. 5／13	サンスターセミナー 「効果的なフッ化物製剤の 使用について」	・フッ化物の使用方法を説明できる	オンライン	筆記用具、セナ ー資料、使用中 の歯ブラシ、フッ 化ゲルのボトル、 トレー、口腔 ケアシート			美馬
2. /	フッ化物ゲル塗布基礎実習	・フッ化物ゲルの特徴を説明できる ・フッ化物ゲル塗布を実施できる。	203	ビュレット、ミラー、 顎模型、頬粘膜 ボックス、スライド 式手鏡	○		
3. /	シャープニング基礎講義	・シャープニングの目的と砥石の 種類を述べることができる。	203	スケーラー式、 黒油性ペン、ティ ッシュペーパー	○		星
4. /	シャープニング実習1	・シクルタイプスケーラーの刃 部形態を説明することができる。 ・シャープニングのポイントに沿 って、適切に研ぐことができる。		スケーラー式、 シャープニングに必 要なもの一式			
5. /	シャープニング実習2	・キュレットタイプスケーラーの 刃部形態を説明することができる。 ・シャープニングのポイントに沿 って、適切に研ぐことができる。					
6. /	フッ化ジアンミン銀講義	・フッ化ジアンミン銀の目的を説明でき る。 ・フッ化ジアンミン銀の特徴を説明でき る。	203	後日案内	○		美馬
7. /	シャープニング実習3	・シクルタイプスケーラとキュ レットタイプスケーラーを、シャ ープニングのポイントに沿って、 適切に研ぐことができる。	203	スケーラー式、 シャープニングに必 要なもの一式	○		星
8. /	小窩裂溝填塞法講義	・小窩裂溝填塞法の種類・特徴等 を説明できる。	203	ビュレット、探針、 ミラー、ドライバー、 顎模型(下顎を 透明歯肉)、頬 粘膜ボックス、セ テップ	○		美馬
9. /	小窩裂溝填塞法実習	・小窩裂溝填塞材を実施できる。					
10. /	う蝕活動性試験講義	・う蝕活動性試験を実施するた めに、その種類・手順を理解し、 注意点を説明できる。		テキスト「歯科予防 処置論・歯科保 健指導論第2 版」			星

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予防衣	白衣	備考
11. /	う蝕活動性試験実習	・5種類のう蝕活動性試験を、感染対策に考慮して実施できる。	オンライン	タル(手拭き用、ティッシュペーパー、スリッドミラー)			星
12. /	う蝕活動性試験まとめ	・う蝕活動性試験の結果を評価、分析できる。		テキスト「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」			
13. /	復習1 (う蝕活動性試験まとめ)	・う蝕活動性試験を説明できる。		テキスト「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」、「保健生態学第2版」			
14. /	復習2 (フッ化物の応用、悪心嘔吐発現量計算)	・フッ化物応用について説明できる。 ・悪心嘔吐発現量の計算ができる。		テキスト「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」、「保健生態学第2版」			美馬
15. /	復習3 (う蝕予防処置まとめ)	・国家試験問題を理由を付けて解ける。		テキスト「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」、「保健生態学第2版」			星

2年前期 実習

＜専門分野＞科目名 歯科予防処置Ⅳ 講師名 田澤栄美・美馬寿恵 単位数 前・後期3

授業概要	・マニキン実習にて、スケーリング・ルートプレーニングの知識と技術を修得する。 ・スケーリング・ルートプレーニングの相互実習を行うことで、患者・補助者・術者の経験を通じ、それぞれの立場での心構え・気配り・技術や医療連携を学ぶ。また、口腔内の状態を観察する能力を養い、観察方法の知識や技術を修得する。 ・履修上の注意 持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの確認を行なう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」「歯周病学 第2版」
副教材	配布プリント（担当教員ごとに整理、ファイリングし、テキストと同様に扱う） 授業に必ず持参
評価方法	期末試験（筆記試験 ※後期授業終了後に実施）、SRP 確認テスト、提出物

指導計画

回・月／日		項目	到達目標	教室	持ち物	予 防 衣	白 衣	備 考		
1.	／	SRP基礎	・スケーリング・ルートプレーニングの違い、キュレットスケーラーについて説明できる。	オンライン	顎模型（下顎透明歯肉）、マニキン実習に必要なもの一式、歯石付ティッシュ					
2.	／	マニキン実習 1	・机上及びマニキン上で、下顎前歯部のシクル及びキュレットスケーラーの操作ができる。	203	マニキン実習に必要なもの一式、顎模型（下顎透明歯肉）、ティッシュ					
3.	／	マニキン実習 2								
4.	／	マニキン実習 3				マニキン実習に必要なもの一式、顎模型（下顎普通歯肉）（下顎 3-3）人工歯石塗布 縁上 3mm 縁下 2mm、マニキン用カバーシート				
5.	／	マニキン実習 4								
6.	／	マニキン実習 5								
7.	／	プロービング基礎実習	・マニキン上で全顎のプローブ操作ができる。		マニキン実習に必要なもの一式、顎模型（上下顎普通歯肉、舌模型装着、マニキン用カバーシート	○			田澤	
8.										
9.	／	マニキン実習 6	・机上及びマニキン上で、下顎臼歯部のシクル及びキュレットスケーラーの操作ができる。		マニキン実習に必要なもの一式、顎模型（下顎透明歯肉）、ティッシュ					
10.	／	マニキン実習 7								
11.	／	マニキン実習 8					マニキン実習に必要なもの一式、顎模型（下顎普通歯肉）（下顎左右 4-7 人工歯石塗布）縁上 3mm 縁下 2mm、舌模型装着、マニキン用カバーシート			
12.	／	マニキン実習 9								
13.	／	マニキン実習 10								
14.	／	SRP復習（下顎）	・マニキン上で、下顎のシクル及びキュレットスケーラーの操作が適切にできる。				マニキン実習に必要なもの一式、顎模型（下顎普通歯肉）（下顎人工歯石塗布）、舌模型装着、マニキン用カバーシート			
15.	／	SRPテスト（下顎）	・マニキン上で下顎の SRP 操作が適切にできる。			顎模型（人工歯石を全て除去した状態）、スケーラー一式、マニキン用カバーシート				
16.										

回・月／日		項目	到達目標	教室	持ち物	予 防 衣	白 衣	備 考
17. /		SRP相互実習 1 オリエンテーション (45 分)	・相互実習の概要を説明できる。 ・相互実習の記録用紙の記入方法が説明できる。					
18.	/	SRP相互実習 1ーA (180分)	・相互実習にて、下顎のSRPが適切に実施できる。 ・患者・術者・補助者の経験を通じ、それぞれの立場での心構え・気配り・技術や医療連携ができる。 ・患者配慮ができる。	B01	相互実習に必要なもの、記録用紙、指導用媒体(顎模型、(普通歯肉) 指導用歯ブラシ)、筆記用具(シャープペン、黒ボールペン)、フェイスシールド		○	美馬
19.								
20.	/	SRP相互実習 1ーB (180分)						
21.								
22.	/	SRP相互実習 1ーC (180分)						
23.								
24. /		マニキン実習1 1	・机上及びマニキン上で、下顎臼歯部のシックル及びキュレットスクレーパーの操作ができる。	203	マニキン実習に必要なもの一式、顎模型(下顎透明歯肉)、フェイスシールド		○	田澤
25. /		マニキン実習1 2						
26. /		マニキン実習1 3			マニキン実習に必要なもの一式、顎模型(下顎普通歯肉)(下顎左右 4-7 人工歯石塗布) 縁上 3mm 縁下 2mm、舌模型装着、マニキン用カバーシート			
27. /		マニキン実習1 4			マニキン実習に必要なもの一式、顎模型(上顎透明歯肉)、フェイスシールド			
28. /		マニキン実習1 5						
29. /		マニキン実習1 6	・机上及びマニキン上で、上顎前歯部のシックル及びキュレットスクレーパーの操作ができる。		マニキン実習に必要なもの一式、顎模型(上顎透明歯肉)、フェイスシールド			
30. /		マニキン実習1 7						

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

＜専門分野＞ 科目名 歯科予防処置Ⅳ 講師名 田澤栄美・美馬寿恵 単位数 前・後期3

授業概要	・マニキン実習にて、スケーリング・ルートプレーニングの知識と技術を修得する。 ・スケーリング・ルートプレーニングの相互実習を行うことで、患者・術者・補助者の経験を通じ、それぞれの立場での心構え・気配り・技術や医療連携を学ぶ。また、口腔内の状態を観察する能力を養い、観察方法の知識や技術を修得する。 ・履修上の注意 -持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの確認を行なう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」「歯周病学 第2版」
副教材	配布プリント（担当教員ごとに整理、ファイリングし、テキストと同様に扱う） 授業に必ず持参
評価方法	期末試験（筆記試験）、SRP 確認テスト、提出物

指導計画

回・月／日		項目	到達目標	教室	持ち物	予防衣	白衣	備考
1.	／	マニキン実習 14	・マニキン上で、上顎前歯部のシックル及びキュレットスケーラーの操作ができる。	203	マニキン実習に必要なもの一式、顎模型（上顎普通歯肉、上顎 3-3 人工歯石塗布）縁上 3mm 縁下 2mm、フェイスシート	○		田澤
2.	／	マニキン実習 15			マニキン実習に必要なもの一式、顎模型（上顎透明歯肉に替えてくる）、フェイスシート			
3.	／	マニキン実習 16	・マニキン上で、上顎臼歯部のシックル及びキュレットスケーラーの操作ができる。		マニキン実習に必要なもの一式、顎模型（上顎普通歯肉に替えてくる、上顎 4-7 人工歯石塗布）縁上 3mm 縁下 2mm、フェイスシート			
4.	／	マニキン実習 17						
5.	／	マニキン実習 18						
6.	／	マニキン実習 19						
7.	／	マニキン実習 20						
8.	／	マニキン実習 21						
9. 10.	／	SRP 復習（下顎）（180 分）	・マニキン上で、下顎のシックル及びキュレットスケーラーの操作が適切にできる。	マニキン実習に必要なもの一式、顎模型（普通歯肉・舌模型装着）、シャープニング実習に必要なもの一式、フェイスシート				
11. 12.	／	SRP 確認テスト1（180 分）	・マニキン上で下顎の SRP 操作が適切にできる。	顎模型（人工歯石がすべて除去された状態）、マニキン実習に必要なもの一式、フェイスシート				
13.	／	SRP 相互実習 1 オリエンテーション	・相互実習の概要を説明できる。 ・相互実習の記録用紙の記入方法が説明できる		スケーラーケース、シャープニング実習に必要なもの一式			美馬
14. 15.	／	SRP 相互実習 1-A（180 分）	・相互実習にて、下顎のSRP が適切に実施できる。 ・患者・術者・補助者の経験を通じ、それぞれの立場での心構え・気配り・技術や医療連携ができる。 ・患者配慮ができる。	BO1	相互実習に必要なもの、記録用紙、指導用媒体（顎模型、（普通歯肉）指導用歯ブラシ）、筆記用具（シャープペン、黒板消し）、フェイスシート	○		
16. 17.	／	SRP 相互実習 1-B（180 分）						

回・月／日		項目	到達目標	教室	持ち物	予 防 衣	白 衣	備 考
18. ／		SRP 相互実習 1 まとめ	・相互実習の記録を作成することができる。		相互実習に必要なプリント一式、記録用紙、筆記用具			美馬
19. 20.	／	SRP 復習（上顎） （180 分）	・マニキン上で、上顎のシッ クル及びキュレットスケ ーラーの操作が適切にで きる。	203	マニキン実習に必要なもの一式、 顎模型（普通歯肉）、シャープニ ング実習に必要なもの一式、フェイス シート	○		田澤
21. 22.	／	SRP 確認テスト 2 （180 分）	・マニキン上で上顎の SRP 操作が適切にできる。		顎模型（人工歯石がすべて除去さ れた状態）、マニキン実習に必要なもの 一式、フェイスシート			
23. ／		SRP 相互実習 2 オリエンテーション	・相互実習の概要を説明でき る。 ・相互実習の記録用紙の記入 方法が説明できる。		スケーラーケース、シャープニン グ実習に必要なもの一式			
24. 25.	／	SRP 相互実習 2ーA （180 分）	・相互実習にて、上顎のSR Pが適切に実施できる。 ・患者・術者・補助者の経験 を通じ、それぞれの立場で の心構え・気配り・技術や 医療連携ができる。 ・患者配慮ができる。	BO1	相互実習に必要なもの、記録 用紙、指導用媒体（顎模型、 （普通歯肉）指導用歯ブ ラシ）、 筆記用具（シャー ペン、黒ボ ールペ ン）、フェイス シート	○		美馬
26. 27.	／	SRP 相互実習 2ーB （180 分）						
28. ／		SRP 相互実習 2 まとめ	・相互実習の記録を作成する ことができる。		相互実習に必要なプリント一式、 記録用紙、筆記用具			
29. ／		SRP 総まとめ	・マニキン上で、全顎の SRP 操作を適切に実施できる。	203	マニキン実習に必要なもの一式、 顎模型（上下普通歯肉・人工歯石 塗布部位は後日伝達）、フェイス シート	○		田澤

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

2 年後期 実習

＜専門分野＞ 科目名 歯科予防処置Ⅴ 講師名 星 貴子 美馬寿恵 単位数 後期 1

授業概要	う蝕や歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識・技術・態度を習得する。 ・履修上の注意 - 持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの確認を行なう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
副教材	配布プリント（担当教員ごとに整理、ファイリングし、テキストと同様に扱う） 授業に必ず持参
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予防衣	白衣	備考
1. /	超音波・エアスケーラー・歯面清掃器講義	・超音波・エアスケーラー・歯面清掃器の原理、構成と性能の特徴を説明できる。 ・それぞれの利点、欠点、禁忌症、操作方法を説明できる。					
2. /	歯面研磨講義	・歯面研磨、貼薬、洗浄について説明できる。 ・ポータブルモーターの準備、片付けができる。	203	マスク、ゴーグル、フェイスシールド、10 円玉 1 枚	○		
3. /	歯面研磨基礎実習	・マニキン上で、歯面研磨・貼薬・洗浄を実施できる。					
4. /	歯面研磨相互実習 A	・相互実習において歯面研磨の操作を安全に実施できる。 ・患者・補助者・術者の経験を通じ、それぞれの立場での心構え・気配り・技術や医療連携ができる。	BO1	相互実習に必要なもの、顎模型（普通歯肉）、頬粘膜ボックス、フェイスシールド、記録用紙、筆記用具		○	
5. /	歯面研磨相互実習 B						
6. /	超音波スケーラーオリエンテーション	・超音波相互実習の概要を述べることができる					
7. /	超音波スケーラー相互実習 A	・相互実習において超音波スケーラーの操作を安全に実施できる。 ・患者・補助者・術者の経験を通じ、それぞれの立場での心構え・気配り・技術や医療連携ができる。	BO1	相互実習に必要なもの、顎模型（普通歯肉）、頬粘膜ボックス、フェイスシールド、記録用紙、筆記用具		○	
8. /	超音波スケーラー相互実習 B						
9. /	エアスケーラーオリエンテーション（45 分）	・エアスケーラー相互実習の概要を述べることができる。					
10. /	エアスケーラー相互実習 A	・相互実習においてエアスケーラーの操作を安全に実施できる。 ・患者・補助者・術者の経験を通じ、それぞれの立場での心構え・気配り・技術や医療連携ができる。	BO1	相互実習に必要なもの、顎模型（普通歯肉）、頬粘膜ボックス、フェイスシールド、記録用紙、筆記用具		○	
11. /	エアスケーラー相互実習 B						
12. /	歯面清掃器オリエンテーション（45 分）	・歯面清掃器相互実習の概要を述べることができる。					
13. /	歯面清掃器基礎実習	・歯面清掃器の基本的な操作ができる。	BO1	マスク、ゴーグル、フェイスシールド、10 円玉 1 枚		○	

14. /	歯面清掃器相互実習A	・相互実習において歯面清掃器の操作を安全に実施できる。 ・患者・補助者・術者の経験を通じ、それぞれの立場での心構え・気配り・技術や医療連携ができる。	BO1	相互実習に必要なもの、顎模型（普通歯肉）、頬粘膜ボックス、フェイスシールド、記録用紙、筆記用具		○	
15. /	歯面清掃器相互実習B						
16. /	器械使用の 歯科予防処置まとめ	・歯科予防処置に使用する器械について、利点、欠点、禁忌症、操作方法を説明できる。					

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

2021年度 3年前期 実習

＜専門分野＞科目名 歯科予防処置Ⅵ 講師名 田澤栄美・星貴子・美馬寿恵 単位数 1

授業概要	う蝕や歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的知識・技術・態度を習得する。 ・履修上の注意 - 持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの確認を行なう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」「歯周病学第2版」「保健生態学第2版」
副教材	配布プリント（担当教員ごとに整理、ファイリングし、テキストと同様に扱う） 授業に必ず持参
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予防衣	白衣	備考
1. /	様々なスケーラー・プロープ基礎実習	・様々なスケーラーの種類・特徴が説明できる。	203	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」	○		田澤
2. /	シャープニング実習	・シクルタイプスケーラー、キュレットタイプスケーラーのシャープニングが適切にできる。		スケーラー式、シャープニングに必要なもの一式			
3.	ウェルテックセミナー「う蝕・歯周病予防のためのプラークコントロール」	・口腔ケアに必要な知識を説明することができる。		後日案内			
4.							
5. /	プロケア基礎知識	・プロフェッショナル口腔ケアの重要性を説明できる。 ・PMTCに関する知識と手順を説明できる。		「歯科予防処置論・歯科保健指導論」			
6. /	プロケア基礎 1	・マニキン上で、PMTCに使用する器材を操作できる。(下顎)	203	顎模型（上下普通歯肉、舌模型装着）、頬粘膜パック、器具拭きタオル、フェイスシート	○		
7. /	プロケア基礎 2	・マニキン上で、PMTCに使用する器材を操作できる。(上顎)					
8. /	プロケア基礎 3	・マニキン上で、歯肉マッサージが実施できる。 ・プロフェッショナル口腔ケアの相互実習の流れと記録法を述べるができる。					
9. /	歯科予防処置まとめ 1	・歯科予防処置に必要な知識を説明することができる。		「歯科予防処置論・歯科保健指導論」、 「歯周病学第 2 版」			
10. /	歯科予防処置まとめ 2						
11. /	歯科予防処置まとめ 3						
12. /	う蝕予防処置まとめ 1	・今まで学習してきたう蝕予防処置を基礎から復習し、さまざまな知識を関連付け総合的に理解できる。		「歯科予防処置論・歯科保健指導論」、 「保健生態学第 2 版」			美馬
13. /	う蝕予防処置まとめ 2						
14. /	う蝕予防処置まとめ 3						
15. /	う蝕活動性試験まとめ	・う蝕活動性試験に必要な知識を説明することができる。		「歯科予防処置論・歯科保健指導論」			星

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

1 年前期 実習

＜専門分野＞ 科目名 歯科保健指導Ⅰ 講師名 遠藤直美・狩野真沙子 単位数 1

授業概要	・歯科保健指導をおこなう上での基盤となる知識と考え方を理解する。 ・口腔清掃指導の基礎として口腔清掃法の知識と技術、歯垢・歯石の診査法を修得する。 ・履修上の注意—持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの点検をおこなう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（第2版）
副教材	配布プリント（ファイリング整理して、テキストと同様に扱う） 歯科保健関係統計資料
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

テキスト、配布プリントを活用し、復習をおこない授業に臨むこと。

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予防衣	備考
1. /	歯科保健指導総論1 （歯科保健指導とは）	歯科保健指導とは何かを述べられる。 健康の概念、予防の概念を説明できる。				遠藤
2. /	歯科保健指導総論2 （口の機能 演習）	口の機能について説明できる。 （演習）		ｽﾀﾝﾄﾞ ｵﾌﾞ 手鏡 （以後手鏡と表記） ミネラルウォーター 1 本 （500ml） フランスパン 1 切れ		遠藤
3. /	歯科保健指導総論3 （口の健康と習癖）	口の健康について説明できる。 口の健康に関わる習癖（癖）について説明できる。		手鏡		遠藤
4. /	歯科保健指導総論4 （口の健康と生活行動）	口の健康に関わる生活行動について説明できる。				遠藤
5. /	歯科保健指導総論5 （行動変容）	行動変容の要素とそのステップを述べられる。 行動変容の理論を説明できる。				遠藤
6. /	口腔清掃方法1 （口腔清掃の意義）	口腔清掃とブラークコントロールの意義と概要について述べられる。				遠藤
7. /	口腔清掃方法2 （歯ブラシに関する知識）	歯ブラシの種類、名称、管理方法、交換時期について説明できる。	TAKI	・普段使用している歯ブラシ ・入学時に購入した歯ブラシ（各種、計5本） ・定規		遠藤
8. /	口腔清掃方法3 （ブラッシング法①）	ブラッシング方法とその為害作用の関係を説明できる。	203	・顎模型 ・舌模型 ・指導用歯ブラシ ・普段使用している歯ブラシ ・コップ ・手鏡 ・ﾊﾝﾄﾞ ｵﾌﾞ ｵｰﾙ 注)実習前の歯磨き禁止	○	遠藤
9. /	口腔清掃方法4 （ブラッシング法②）	効果的なブラッシング方法を実施できる。	203		○	遠藤
10. /	口腔清掃方法5 （デンタルフロス）	デンタルフロスの種類と使用方法を述べられる。 顎模型及び自らの口腔内において操作できる。	203	・顎模型、ドライバー ・入学時に購入したデンタルフロス ・ﾃﾞｨｯｸｽ ｵﾌﾞ ｵｰﾙ ・コップ 手鏡 ・ﾊﾝﾄﾞ ｵﾌﾞ ｵｰﾙ	○	遠藤

11. /	口腔清掃方法6 (歯間ブラシ 他)	歯間ブラシやタフトブラシなどの清掃用具の種類と使用法を説明できる。 顎模型及び自らの口腔内において使用法を工夫し操作できる。	203	・顎模型、ドライバー ・ティッシュペーパー ・コップ ・手鏡 ・入学時に購入した 歯間ブラシ(箱ごと)、 タフトブラシ ・ハンドタル	○	遠藤
12. /	口腔清掃方法7 (電動歯ブラシと 水流口腔洗浄器)	電動歯ブラシ(音波歯ブラシや超音波歯ブラシ他)、水流口腔洗浄器の特徴と使用効果を述べられる。	203	・普段使用している 歯ブラシ ・コップ ・手鏡 ・ハンドタル 注)実習前の歯磨き禁止	○	遠藤 株)ミナ
13. /	口腔清掃方法8	補助的清掃用具を応用できる。	203	顎模型、指導用歯ブラシ、指導用歯間ブラシ	○	遠藤
14. /	プラーク(歯垢)・ 歯石の診査法	プラーク(歯垢)・歯石の指数(オレリー法他)を算出できる。				狩野
15. /	プラーク(歯垢) 染色実習	歯垢染色剤の種類を述べられる。 自らの口腔内において、歯垢染色状況を測定できる。		・普段使用している 歯ブラシ ・コップ ・手鏡 ・ハンドタル ・ティッシュペーパー ・鉛筆、消しゴム、赤鉛筆 (細く削っておく)、 ・黒板・ホワイトボード・電卓 ・リップクリーム 注)実習前の歯磨き禁止	○	狩野

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

＜専門分野＞ 科目名 歯科保健指導Ⅱ 講師名 狩野真沙子・遠藤直美 単位数 1

授業概要	口腔清掃指導の基礎として口腔清掃法の知識と技術を学ぶ。 歯科保健指導の手順、記録、対象把握法など歯科保健指導を行なう上での基本になる考え方や方法を学ぶ。 ライフステージの中で、歯科保健指導Ⅱでは妊産婦期から新生児・乳児・幼児期の歯科保健指導の知識、技術を身につける。 ・履修上の注意 - 持ち物はこの教授要綱で確認、追加等については授業にて次の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの確認を行なう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（第2版）」
副教材	プリント（ファイリング整理して、テキストと同様に扱う。授業に必ず持参する。） 歯科保健関係統計資料
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予 防 衣	白 衣	備考
1 /	情報の収集 (アセスメントについて)	歯科衛生過程の考え方を説明できる。 歯科保健指導を行なう為の情報収集ができる。		歯科衛生士概論Ⅰで配布されたプリント			遠藤
2 /	医療面接	医療面接の技法を理解し、留意点を説明できる。					
3 /	聞き取り実習 1	聞き取り（問診）で確認が必要な患者の情報について説明できる。					
4 /	聞き取り実習 2	歯科保健指導に必要な情報を聞き取り（問診）できる。	BO1	プリンター式		○	
5 /	ブラッシング法の応用	自らの口腔内で効果的な口腔清掃法を工夫できる。	203	顎模型・指導用歯ブラシ ティッシュペーパー・ハンドタル 赤鉛筆・スクラブ式手鏡・ 口腔内で使用する歯ブラシ	○		狩野
6 /	フロッシングの応用	マニキン上で適切なフロッシングを実施できる。 座位で適切なフロッシングができる。	203	顎模型・スクラブ式手鏡 デンタルフロス・ハンドタル	○		
7 /	術者磨き A	適切な術者磨きが実施できる。 適切なブラッシング方法を指導することができる。	BO1	口腔内で使用する歯ブラシ ティッシュペーパー・ハンドタル 相互実習の準備		○	
8 /	術者磨き B	適切なフロッシング（指巻き法）を実施できる。					
9 /	術者磨き記録作成	歯科保健指導の記録ができる。 歯磨き方法を説明できる。		記録用紙			
10 /	妊産婦期の 歯科保健指導	妊産婦の一般的特徴を説明できる。 妊産婦の口腔の特徴を説明できる。 妊産婦期の歯科保健行動について説明できる。					遠藤
11 /	新生児・乳児・幼児期の 歯科保健指導 1	新生児・乳児・幼児の一般的特徴を説明できる。 新生児・乳児・幼児の歯科保健指導に必要な基礎知識を列挙できる。		テキスト 「歯科保健関係統計資料」			
12 /	新生児・乳児・幼児期の 歯科保健指導 2						
13 /	新生児・乳児・幼児期の 歯科保健指導 3						
14 /	新生児・乳児・幼児期の 歯科保健指導実習 A	新生児・乳児・幼児期の保護者に対し、寝かせ磨きの方法を含めた歯科保健指導ができる。	203	プリント参照	○		
15 /	新生児・乳児・幼児期の 歯科保健指導実習 B						

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

2年前期 実習

＜専門分野＞ 科目名 歯科保健指導Ⅲ 講師名 狩野真沙子・遠藤直美・堀口由紀子 単位数 3

授業概要	・地域や学校などにおいて歯科保健活動をおこなうための計画や準備について学ぶ。 ・保育園での歯科保健指導実習準備を通して、幼児を対象とした歯科保健指導計画と準備の方法を修得する。 ・各ライフステージにおける歯科保健指導の知識を修得する。（成人期、学齢期、老年期） ・歯科保健指導相互実習において、指導用媒体を活用し、う蝕と歯周病の説明をする。 ・歯科保健指導の相互実習を通し、歯科保健指導のプロセスと技法を実施する。 ・履修上の注意—持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの点検をおこなう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論
副教材	配布プリント（ファイリング整理して、テキストと同様に扱う） 最新歯科衛生士教本 保健生態学、高齢者歯科 歯科保健関係統計資料、ポイントチェック歯科衛生士国家試験対策②
評価方法	期末試験（筆記試験）、指導用媒体、提出物

指導計画 テキスト、配布プリントを活用し、予習・復習をおこない授業に臨むこと。

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予 防 衣	白 衣	備考
1. /	成人期の歯科保健指導 1	成人期の歯科保健指導に必要な基礎知識を説明できる。		テキスト「保健生態学」 歯科保健関係統計資料 ポイントチェック②			狩野
2. /	成人期の歯科保健指導 2	口腔内写真例を使い歯肉を観察し、変化を説明できる。					狩野
3. /	成人期の歯科保健指導 3	各種ブラッシング方法の再確認。 「指導用媒体を用いた歯科保健指導（成人対象）実習」の方法を列挙できる。		顎模型 指導用歯ブラシ			狩野
4. /	成人期の歯科保健指導 4	「指導用媒体を用いた歯科保健指導（成人対象）」の原稿が作成できる。		媒体 資料など			狩野
5. /	指導用媒体を用いた 歯科保健指導 1	「指導用媒体を用いた歯科保健指導（成人対象）」の原稿を持ち寄り、模擬実習を実施できる。		顎模型 指導用歯ブラシ 媒体			狩野
6. /	指導用媒体を用いた 歯科保健指導 2	指導用媒体を用いた歯科保健指導（成人対象）」の原稿を持ち寄り、模擬実習を実施できる。		顎模型 指導用歯ブラシ 媒体			狩野
7. /	成人期の歯科保健指導 5	事例からSOAP I E形式の業務記録の書き方を検討できる。（グループワーク）					狩野
8. /	歯科保健指導相互実習 1 オリエンテーション	相互実習 1 の手順、注意事項、自己評価の方法について説明できる。		関係プリント一式			狩野 遠藤
9 10	/	歯科保健指導相互実習 1 A	B01			○	狩野 遠藤
11 12	/	歯科保健指導相互実習 1 B					
13 14	/	歯科保健指導相互実習 1 C	B01			○	狩野 遠藤

15.	／	指導用媒体を用いた 歯科保健指導 3	指導用媒体を用いて模擬指導 (成人対象)が実施できる。		顎模型 指導用歯ﾌﾗｼ 媒体			狩野 他
16.	／	情報の整理	歯科保健指導相互実習で収集 した情報を整理できる。		関係ﾌﾟﾘﾝﾄｰ式			狩野
17.	／	情報の整理～実施計画	歯科保健指導相互実習で収集 した情報から歯科衛生介入の ための到達目標を立てることが できる。		関係ﾌﾟﾘﾝﾄｰ式			狩野
18.	／	実施計画	歯科保健指導相互実習で収集 した情報から歯科衛生介入の ための到達目標と実施計画を 立案できる。		関係ﾌﾟﾘﾝﾄｰ式			狩野
19.	／	指導用媒体を用いた 歯科保健指導 4 (試験)	指導用媒体を用いて模擬指導 が実施できる。 (成人対象 う蝕)	各教室	顎模型 指導用歯ﾌﾗｼ 媒体		○	狩野 他
20.	／	指導用媒体を用いた 歯科保健指導 5 (試験)	指導用媒体を用いて模擬指導 が実施できる。 (成人対象 歯周病)	各教室	顎模型 指導用歯ﾌﾗｼ 媒体		○	狩野 他
21.	／	歯科保健指導相互実習 2 オリエンテーション	相互実習 2 の手順、注意事項、 自己評価の方法について説明 できる。		関係ﾌﾟﾘﾝﾄｰ式			狩野 遠藤
22	／	歯科保健指導相互実習 2 A	・相互ｸﾞﾙｰﾌﾟ：歯科衛生介入を 実施できる。 ・演習ｸﾞﾙｰﾌﾟ：指導用媒体(小 児指導用)を仕上げることがで きる。	BO1			○	狩野 遠藤
23								
24	／	歯科保健指導相互実習 2 B	・相互ｸﾞﾙｰﾌﾟ：歯科衛生介入を 実施できる。 ・演習ｸﾞﾙｰﾌﾟ：指導用媒体(小 児指導用)を仕上げることがで きる。	BO1			○	狩野 遠藤
25								
26	／	歯科保健指導相互実習 2 C	・相互ｸﾞﾙｰﾌﾟ：歯科衛生介入を 実施できる。 ・演習ｸﾞﾙｰﾌﾟ：指導用媒体(小 児指導用)を仕上げることがで きる。	BO1			○	狩野 遠藤
27								
28.	／	実習記録作成	歯科保健指導相互実習 2 で実 施した実習記録(SOAP I E 形式)を作成できる。		関係ﾌﾟﾘﾝﾄｰ式			狩野
29.	／	集団歯科保健指導	集団歯科保健指導の場、計画、 準備について述べることがで きる。		ﾃｷｽﾄ「保健生態学」			遠藤
30.	／	保育園の歯科保健指導実習 準備 1	指導をおこなうにあたっての 基礎条件を列挙できる。					遠藤
31.	／	保育園の歯科保健指導実習 準備 2	指導案を作成できる。		関係ﾌﾟﾘﾝﾄｰ式			遠藤
32.	／	保育園の歯科保健指導実習 準備 3	指導案を作成できる。 指導計画について発表できる。 他者の発表を聴講し、評価で きる。		関係ﾌﾟﾘﾝﾄｰ式			遠藤
33.	／	保育園の歯科保健指導実習 準備 4	指導原稿を作成できる。 指導用媒体作製の計画を立案 できる。		関係ﾌﾟﾘﾝﾄｰ式			遠藤
34.	／	保育園の歯科保健指導実習 準備 5	指導媒体を作成できる。		定規、はさみ、カッタ ーなど			遠藤
35.	／	保育園の歯科保健指導実習 準備 6	指導媒体を仕上げることがで きる。		定規、はさみ、カッタ ーなど			遠藤
36.	／	保育園の歯科保健指導実習 準備 7	グループ内でリハーサルを行 い、指導案を改善できる。		関係ﾌﾟﾘﾝﾄｰ式 指導原稿、媒体			遠藤

37. /	保育園の歯科保健指導実習 準備 8	クラスでリハーサルを行い、指導案を改善できる。		関係ﾌﾟﾘﾝﾄｰ式 指導原稿、媒体 実習当日の身だしなみ			遠藤
38. /	保育園の歯科保健指導実習 準備 9	最終的なリハーサルが実施できる。		実習当日の身だしなみ			遠藤
39. /	保育園の歯科保健指導 実習準備 10	実施にあたっての最終打ち合わせをし、当日の流れを説明できる。		自分の口腔用歯ﾌﾟﾗｯｸ ﾌｧｯｼｭﾊﾟｰﾊﾟｰ 関係ﾌﾟﾘﾝﾄｰ式			遠藤
40. /	学齢期の歯科保健指導	学齢期の歯科保健指導に必要な基礎知識を説明できる。		歯科保健関係統計資料			狩野
41. /	学校歯科保健	学校歯科保健の基礎知識を説明できる。					狩野
42. /	学校歯科保健活動の実際	学校歯科保健をはじめ、地域での歯科保健活動の実際例を知る。					堀口
43. /	老年期の口腔機能向上	老年期の歯科保健指導に必要な基礎知識を説明できる。 口腔機能向上の為に間接訓練の手段を説明できる。		テキスト 「高齢者歯科」 歯科保健関係統計資料			遠藤
44. /	リスクに応じた歯科保健指導 1	口臭・口腔乾燥症に対する介入方法を説明できる。 禁煙指導への介入方法を説明できる。					遠藤
45. /	リスクに応じた歯科保健指導 2	媒体を用いて禁煙指導の模擬指導が実施できる。	203	媒体（禁煙指導用）	○		遠藤

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

2年後期 実習

＜専門分野＞ 科目名 歯科保健指導Ⅳ 講師名 狩野真沙子・遠藤直美 単位数 1

授業概要	学校における歯科保健指導を実施する能力を身につけるために、小学校実習および特別支援学校実習の準備を通して、集団指導を計画・実施する方法を学ぶ。 ・履修上の注意 - 持ち物はこの教授要綱で確認、追加等については授業にて次の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの確認を行なう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」
副教材	プリント（ファイリング整理して、テキストと同様に扱う。授業に必ず持参する。） 歯科保健関係統計資料
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予 防 衣	備考
1 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 1	小学校の歯科保健指導実習の基礎事項 を説明できる。				狩野
2 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 2	担当学年の歯科保健指導案を作成 できる。				
3 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 3	担当学年のレベルに合わせた歯科保健 指導原稿を作成できる。		原稿作成の資料		
4 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 4	担当学年のレベルに合わせた指導用媒 体を作製できる。		はさみ、カッター、 定規など媒体作成のた めの用具 媒体指導に必要な資料 指導案・指導原稿		
5 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 5					
6 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 6	乳歯と永久歯の識別ができる。 小学生への個別支援法を説明できる。		小学校実習プリント		
7 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 7	集団指導の練習を行い、修正・改善 できる。		媒体 指導原稿など		
8 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 8	集団指導ミーティングを行い、問題点を検討、 修正できる。		媒体・指導原稿	○	
9 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 9					
10 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 10	集団指導の練習を行い、修正・改善 できる。		媒体・指導原稿		
11 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 11	集団歯科保健指導法を説明できる。 集団指導の最終ミーティングを行い、問題点を 検討、修正できる。		媒体 指導原稿など	○	
12 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 12					
13 /	小学校の歯科保健指導 実習準備 13	個別指導ミーティングを行い、実習全体の流れ を説明できる。 小学校実習の留意点を説明できる。		小学校実習プリント 小学校実習での児童 の持ち物		
14 /	特別支援学校の 歯科保健指導	特別支援学校における歯科保健指導の 計画を立案できる。特別支援学校での歯 科保健指導の留意点を説明できる。 知的障害者への対応における留意点を 列挙できる。特別支援学校（高等学校） の歯科保健指導の留意点を説明できる。		手鏡		遠藤
15 /	1週間ごとの 歯科保健指導まとめ	各1週間の特徴を整理できる 各1週間の歯科保健指導のポイントを 整理できる。 各1週間の問題点を列挙できる。				狩野

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

3年前期 実習

＜専門分野＞ 科目名 歯科保健指導 V 講師名 狩野真沙子・遠藤直美 単位数 1

授業概要	歯科保健指導実践力を高めるために、 ・各ライフステージにおける歯科保健指導の知識を修得する。（思春期） ・中学校・高等学校での歯科保健指導準備を通して、小集団指導方法と思春期の歯科保健指導計画や準備方法を修得する。 ・症例検討実習を通して歯科保健指導計画作成の能力を養う。（乳幼児期・老年期） ・歯科保健指導論の知識を整理する。 ・履修上の注意—持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの点検をおこなう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論
副教材	配布プリント（ファイリング整理して、テキストと同様に扱う） 最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション、歯と口の健康百科
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画 テキスト、配布プリントを活用し、予習・復習をおこない授業に臨むこと。

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予防衣	白衣	備考
1. /	乳幼児期の症例検討実習 1	乳幼児の事例から歯科衛生問題点を見つけ、必要な指導内容を列挙できる。					遠藤
2. /	乳幼児期の症例検討実習 2	各自が考えた指導内容について、グループで検討し症例にあった指導計画を立案できる。		2 年次作製した指導用媒体（乳幼児用）			遠藤
3. /	乳幼児期の症例検討実習 3	検討した指導内容を発表できる。	203	2 年次作製した指導用媒体（乳幼児用）	○		遠藤
4. /	老年期の症例検討実習 1	要介護高齢者歯科保健指導の基礎知識を説明できる。		高齢者歯科、摂食嚥下リハビリテーション			遠藤
5. /	老年期の症例検討実習 2	老年期の事例から情報の整理、歯科衛生問題の抽出、分析、解釈できる。		歯科衛生過程プリント、高齢者歯科、摂食嚥下リハビリテーション他必要なテキスト			遠藤
6. /	老年期の症例検討実習 3	歯科衛生診断から歯科保健指導計画を討議できる。		歯科衛生過程プリント、高齢者歯科、摂食嚥下リハビリテーション他必要なテキスト			遠藤
7. /	老年期の症例検討実習 4	歯科保健指導計画を討議し、最終計画を立案できる。		歯科衛生過程プリント、高齢者歯科、摂食嚥下リハビリテーション他必要なテキスト			遠藤
8. /	老年期の症例検討実習 5	検討結果を発表できる。 他者の発表を聴講し、評価できる。	TAKI	高齢者歯科、摂食嚥下リハビリテーション			遠藤
9. /	中学校の歯科保健指導実習準備 1	青年期の歯科保健指導の基礎知識を説明できる。		歯科保健関係統計資料			狩野
10. /	中学校の歯科保健指導実習準備 2	青年期の歯科保健指導の指導計画（役割分担、周知ポスター、指導案）を立案できる。		媒体作成に必要な物			狩野
11. /	中学校の歯科保健指導実習準備 3	指導用媒体の作成ができる。		媒体作成に必要な物			狩野

12. /	中学校の 歯科保健指導実習準備 4	指導用媒体の作成ができる。		媒体作成に必要な物			狩野
13. /	中学校の 歯科保健指導実習準備 5	実施手順の再確認とリハーサル が実施できる。		媒体作成に必要な物			狩野
14. /	歯科保健指導の まとめ	歯科保健指導の知識を整理でき る。					狩野
15. /	歯磨剤の知識	歯磨剤の組成と構造について説 明できる。					遠藤

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

1 年後期 講義

＜専門分野＞ 科目名 食生活指導 講師名 高野由美子 単位数 1

授業概要	・ 歯科衛生士が行う食生活指導の役割を理解し、適切な食生活支援を行うための必要な知識を習得する。 ・ 自己の食生活にも目を向け、食生活改善の実践に繋げて行くこと。
教科書	「最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝」 「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（第2版）」
副教材	「食品成分表 2015 年版（七訂）女子栄養大学出版部」 配布プリント
評価方法	期末試験（筆記試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	食生活と健康Ⅰ	・ 日本の食生活・疾病構造の変化を説明できる。 ・ 日本と世界の食料事情を比較できる。	45 分
2. /	食生活と健康Ⅱ	・ 国民健康・栄養調査結果から、栄養素・食品群別摂取状況を述べるができる。 ・ 国民栄養の現状と課題における食生活指導の必要性を説明できる。	
3. /	食生活と健康Ⅲ	・ 国民健康づくり対策について説明できる。 ・ 国民健康・栄養調査、健康日本21、食事バランスガイド、食生活指針、食育について、説明できる。	
4.	ライフステージ別栄養Ⅰ	・ 成長期における特徴を列挙できる。 ・ 乳児期・幼児期・学童期・思春期における食生活上の注意点を列挙できる。	
5. /	ライフステージ別栄養Ⅱ 咀嚼と食品	・ 成人期における特徴を列挙できる。 ・ 成人期における望ましい食習慣の形成について説明できる。 ・ 妊婦・授乳婦における食生活上の注意点を列挙できる。 ・ 高齢期における咀嚼と嚥下機能に対応した食生活について説明できる。	
6. /	食品のう蝕誘発性 代用甘味料	・ 食品のう蝕誘発性を説明できる。 ・ 代用甘味料の種類を類別できる。 ・ 代用甘味料の特徴を列挙できる。 ・ 低う蝕性甘味料と非う蝕性甘味料を比較できる。	
7. /	食品表示	・ 食品表示法に基づく表示を説明できる。 ・ 特別用途食品と保健機能食品を説明できる。 ・ う蝕予防に関わる表示を説明できる。 ・ 食品添加物の表示を説明できる。	
8. /	食べ物と健康	・ 食品の分類を類別できる。 ・ 食品成分表の使用目的と使用方法を説明できる。 ・ 食物の官能特性（化学的感覚・物理的感覚）について述べるができる。	

1 年前期 実習

＜専門分野＞ 科目名 歯科診療補助Ⅰ 講師名 下田哲子・小林郷子 単位数 1

授業概要	歯科診療補助を行なう上での基盤となる知識と技術および態度を修得する。 ・良質な歯科医療を提供する為に、医療安全対策の必要性和感染予防対策の基礎を理解する。 ・患者が安心して安全な歯科医療を受けられるよう環境を整える。 ・基礎実習のルールを理解する。 ・相互実習のルールと衛生的な器材の取り扱い方法を理解する。 ・履修上の注意 - 持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの確認を行なう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新歯科衛生士教本：歯科診療補助論、歯科機器、微生物学、保存修復・歯内療法
副教材	配布プリント（ファイリング整理して、テキストと同様に扱う。授業に必ず持参する。）
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予防衣	白衣	備考
1. /	総論	・歯科診療補助の業務内容を説明できる ・歯科診療補助の法的解釈を説明できる ・歯科診療補助における歯科衛生士の役割を説明できる		テキスト「歯科診療補助論」			下田
2. /	感染症の概念	・医療安全目標を説明できる ・標準予防策（スタンダードプリコーション）について説明できる ・医療廃棄物を分類できる		テキスト「歯科診療補助論」「歯科機器」			下田
3. /	滅菌と消毒1	・滅菌法について説明できる ・消毒法について説明できる		テキスト「歯科診療補助論」「微生物学」			下田
4. /	滅菌と消毒2	・消毒剤の取り扱いについて説明できる ・消毒液をつくるために必要な薬液量の計算ができる ・感染症とワケについて説明できる		テキスト「歯科診療補助論」「微生物学」			下田
5. /	医療安全	・医療安全の概念を説明できる ・医療安全対策について説明できる ・インシデント・アクシデントについて説明できる		テキスト「歯科診療補助論」			下田
6. /	患者対応の基本	・歯科診療所における医療従事者としての患者対応を説明できる ・特別な配慮が必要な患者対応を説明できる		テキスト「歯科診療補助論」			下田

7. /	基礎実習 がインターン① (203ルール、 身だしなみ)	- 基礎実習室のルールを説明できる - 医療従事者としての身だしなみを整えることができる	203	テキスト「歯科診療補助論」 スタンド式手鏡、爪切り 黒ヘアバンド、黒ゴム、黒ネット	○		下田
8. /	基礎実習 がインターン② (手洗いの確認、 日常手洗い法)	- 感染予防のための手洗いを説明できる - 感染予防のための手洗いを実施できる	203	テキスト「歯科診療補助論」 爪切り、黒ヘアバンド、黒ゴム、 黒ネット	○		下田
9. /	手指衛生 (手指消毒)	- 適切な手指消毒ができる - マスク・ゴーグル・グローブを正しく着脱できる	301 302 ↓ B01	テキスト「歯科診療補助論」 マスク、ゴーグル		○	下田
10. /	相互実習室の 設備とルール	- 相互実習室内の機器、器材について説明できる - 滅菌・消毒済み器材の取り扱いについて説明できる - 滅菌・消毒済み器材の管理について説明できる - 相互実習のルールを説明できる - 消毒当番（実習当日の準備）について説明できる - 流し当番（実習当日の役割）について説明できる	B01	配布プリント 実習メニュー * 予防衣、白衣の着用は無し。 長髪は束ねる。			下田
11. /	診療室の整備 (ユニット操作含む)	- ユニット・各種器材のメンテナンス方法を説明できる - 歯科用ユニットの各部名称が説明できる - 歯科用ユニットを操作できる	B01	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科機器」		○	下田
12. /	消毒・流し当番 の役割	- 滅菌・消毒済みの器具の取り扱い、管理について説明できる - 相互実習における前日および当日の準備について説明できる	B01	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科機器」		○	下田
13. /	感染予防対策 まとめ	医療安全管理、感染予防対策、消毒滅菌法、患者対応について説明できる (歯科診療補助論の復習)		テキスト「歯科診療補助論」 「歯科機器」 「微生物学」			下田
14. /	衛生材料 1	衛生材料の種類とその用途を説明できる	203	テキスト「保存修復・歯内療法」 * ハサミ、定規、 ブローチ針、ブローチルター	○		小林
15. /	衛生材料 2	衛生材料を時間内で適切な形態に作製できる	203	テキスト「保存修復・歯内療法」 * ハサミ、定規、 ブローチ針、ブローチルター 4cm×4cmのカット綿6枚、 3cm×30cmのカット綿1枚	○		小林

*ハサミは大判の綿花を切る為に、普通サイズのものを持参する。

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

1 年後期 実習

＜専門分野＞ 科目名 歯科診療補助Ⅱ 講師名 下田哲子 単位数 1

授業概要	歯科診療の補助に必要な知識・技術・態度を修得する。 ・安心・安全な歯科医療を提供するために、医療安全対策および、感染予防対策を実施できる。 ・歯科医療を提供するために、相互実習室のルールを遵守できる。 ・衛生的な器材の取り扱いができる。 ・共同動作の目的と歯科診療における歯科衛生士の役割について説明できる。 ・ラバーダム防湿ができる。 ・履修上の注意 - 持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの確認を行なう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	「最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論（第2版）」、「最新歯科衛生士教本 歯科機器」他
副教材	プリント（ファイリング整理して、テキストと同様に扱う。授業に必ず持参する。）
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日		項目	到達目標	教室	持ち物	予 防 衣	白 衣
1. /		共同動作講義	・術者・補助者・患者の適切なポジショニングが説明できる ・バキューム操作が説明できる ・スリーウェイリフト操作が説明できる	203	テキスト「歯科診療補助論」 配布プリント	○	
2. /		共同動作 マニキン実習 1	・術者・補助者・患者の適切なポジショニングができる ・バキューム操作ができる		テキスト「歯科診療補助論」 配布プリント マスク・フェイスシールド 着用	○	
3. /		共同動作 マニキン実習 2	・スリーウェイリフト操作ができる				
4	/	相互実習の 準備・片付け・ 消毒・流し当番 模擬実習	・相互実習室のルールを説明できる ・相互実習の準備ができる ・相互実習後の片付けができる ・感染予防対策を実施できる ・相互実習室のルールを説明できる ・消毒当番が実施できる ・衛生的な器材の取り扱いができる ・流し当番が実施できる ・感染予防対策を実施できる		テキスト「歯科診療補助論」 配布プリント	○	
5							
6	/	共同動作 マニキン 相互実習 A	・共同動作の目的が説明できる ・歯科診療における歯科衛生士の役割について説明できる・適切なフィッシングができる ・適切なバキューム操作ができる	B01	配布プリント、マスク、ゴーグル フェイスシールド 着用		○
7		共同動作 マニキン 相互実習 B					
8	/	共同動作 マニキン 相互実習 C	・患者を安全に誘導できる ・感染予防対策を実施できる				
9							
10	/						
11							
12. /		ラバーダム防湿 マニキン 1	・ラバーダム防湿に使用する器材の用途を説明できる ・ラバーダム防湿に使用する器材の取り扱いができる ・ラバーダム防湿ができる ・ラバーダム防湿を実施する上での患者配慮について説明できる	203	テキスト「歯科診療補助論」 顎模型 頬粘膜ボックス 舌模型 マスク・フェイスシールド 着用	○	
13. /		ラバーダム防湿 マニキン 2					
14. /		ラバーダム防湿 マニキン 3					
15. /		歯科診療補助論 まとめ	・医療安全管理、感染予防対策、滅菌・消毒法、患者対応、共同動作、ラバーダム防湿について説明できる (歯科診療補助論の復習)		テキスト「歯科診療補助論」		

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

2年前期 実習

＜専門分野＞ 科目名 歯科診療補助Ⅲ 講師名 小林郷子・下田哲子 単位数 2

授業概要	・ 正確で安全な歯科医療を提供する為に、チェアサイドでの診療の介助を理解する ・ 歯科診療の補助をおこなう上で必要な治療の手順、薬剤および器材の使用法を修得する。 ・ 歯科治療で用いられる主要歯科材料の性質、使用方法を修得する。 ・ 履修上の注意 - 持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの確認を行なう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新歯科衛生士教本：歯科診療補助論、歯科材料、歯科機器、保存修復・歯内療法、歯周病学、歯科補綴、口腔外科・歯科麻酔、歯科矯正
副教材	配布プリント（ファイリング整理して、テキストと同様に扱う。授業に必ず持参する。）
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予防衣	白衣	備考
1. /	共同動作 マニキン実習	・ 適切な器具の受け渡し方法を 実施できる。	203	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科機器」顎模型、 頬粘膜ボックス、舌模型、 スクラークス（ミラー、ピンセット、 探針）	○		下田
2 3	共同動作 相互実習 A	・ 器具の受け渡しができる。 ・ スムーズに診療するための 配慮ができる。 ・ 感染予防対策に配慮できる。	B01	相互実習に必要な もの、配布プリント		○	下田
4 5	共同動作 相互実習 B						
6 7	共同動作 相互実習 C						
8. /	保存修復時の 診療補助 1	・ 硬組織の検査の方法を説明 できる。 ・ 検査に使用する器材とその 取り扱いを説明できる。 ・ 前準備に使用する器材とその 取り扱いを説明できる。 ・ 切削用器具・器材とその取り 扱いを説明できる。		テキスト 「保存修復・歯内療法」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
9. /	保存修復時の 診療補助 2	・ コンポジットレジン修復の手順 を説明できる。 ・ コンポジットレジン修復に使用 する器材とその取り扱いを 説明できる。 ・ グラスアイオノマーセメント 修復の手順を説明できる。 ・ グラスアイオノマーセメント 修復に使用する器材とその 取り扱いを説明できる。	TAKI	テキスト 「保存修復・歯内療法」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林

10. /	保存修復時の 診療補助 3	・インレー修復の手順を説明できる。 ・インレー修復に使用する器材とその取り扱いを説明できる。		テキスト 「保存修復・歯内療法」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
11. /	保存修復時の 診療補助 4	・隔壁法に用いる器具の操作ができる。 ・歯肉排除法に用いる器材の操作ができる。 ・歯間分離法に用いる器材の操作ができる。	203	テキスト 「保存修復・歯内療法」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」	○		下田
12. /	歯内療法時の 診療補助 1	・歯内療法の検査の方法を説明できる。 ・歯内療法の検査に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 ・歯髄の保存療法に使用する器材とその取り扱いを説明できる。		テキスト 「保存修復・歯内療法」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
13. /	歯内療法時の 診療補助 2	・麻酔抜髄の手順を説明できる。 ・麻酔抜髄に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 ・根管充填の手順を説明できる。 ・根管充填に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 ・根管治療に使用される薬剤を説明できる。		テキスト 「保存修復・歯内療法」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
14. /	歯内療法時の 診療補助 3	・外科的歯内療法の種類、適応症および術式を説明できる。		テキスト 「保存修復・歯内療法」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
15. /	歯周外科治療時の 診療補助 1	・歯周治療の流れを説明できる。 ・歯周治療の検査法と検査結果を説明できる。 ・歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。		テキスト 「歯周病学」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
16. /	歯周外科治療時の 診療補助 2	・外科治療の手順を説明できる。 ・歯周外科治療に使用する薬剤や器具の準備ができる。		テキスト 「歯周病学」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
17. /	歯周外科治療時の 診療補助 3	・歯周パットの目的を説明できる。 ・歯周パットの装着方法を説明できる。 ・歯周パットの練和ができる。 ・歯周パッド装着後の患者への注意事項を説明できる。	203	テキスト 「歯周病学」 「歯科診療補助論」 「歯科材料」 顎模型（下顎の歯肉を外す）、スクレーパー（ミラー、ピッケット、探針）	○		小林

18. /	補綴治療時の 診療補助 1	- 補綴装置の種類とその構造を説明できる。 - 補綴歯科治療で行われる検査を説明できる。 - クラウン製作の手順を説明できる。 - クラウン製作に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 - ブリッジ製作の手順を説明できる。 - ブリッジ製作に使用する器材とその取り扱いを説明できる。		テキスト 「歯科補綴」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
19. /	補綴治療時の 診療補助 2	- 有床義歯製作の手順を説明できる。 - 有床義歯製作に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 - インプラント治療の手順を説明できる。 - インプラント治療に使用する器材とその取り扱いを説明できる。		テキスト 「歯科補綴」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
20. /	補綴治療時の 診療補助 3	- クラウン・ブリッジ治療前・治療中・治療後の患者指導ができる。 - インプラント装着後の指導ができる。 - 全部床義歯治療前・製作中・装着後の患者指導ができる。 - 部分床義歯治療前・製作中・装着後の患者指導ができる。		テキスト 「歯科補綴」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
21. /	口腔外科治療時の 診療補助 1	- 普通抜歯の手順を説明できる。 - 普通抜歯に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 - 難抜歯の手順を説明できる。 - 難抜歯に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 - 消炎手術に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 - 嚢胞摘出術に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 - 歯槽骨整形術に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 - 小帯切除術に使用する器材とその取り扱いを説明できる。		テキスト 「口腔外科・歯科麻酔」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
22. /	歯科麻酔時の 診療補助	- 局所麻酔の手順を説明できる。 - 局所麻酔に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 - 局所麻酔に使用する薬剤を説明できる。 - 吸入鎮静・静脈内鎮静の手順を説明できる。 - 吸入鎮静・静脈内鎮静に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 - 全身麻酔の手順を説明できる。 - 全身麻酔に使用する器材とその取り扱いを説明できる。		テキスト 「口腔外科・歯科麻酔」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林

23.	／	口腔外科治療時の 診療補助2	・局所麻酔に使用する器材（麻酔薬、注射器、注射針）の取り扱いができる。 ・切開に使用する器材（替え刃メス、メスホルダー）の取り扱いができる。 ・縫合に使用する器材（持針器・縫合糸・縫合針）の取り扱いができる。	203	テキスト 「口腔外科・歯科麻酔」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」	○		下田
24.	／	合着材、接着材 講義	・合着材、接着材の特徴、種類、用途を説明できる。 ・合着材、接着材、仮封材、仮着セメントの準備、計量を行うことができる。	203	テキスト 「歯科診療補助論」 「歯科材料」	○		小林
25.	／	仮封材・仮着 セメント講義	・仮封材、仮着セメントの特徴、種類、用途を説明できる。 ・仮封材、仮着セメントの準備、計量を行うことができる。	203	テキスト 「歯科診療補助論」 「歯科材料」	○		小林
26.	／	歯科材料の 取り扱い実習 （合着材、接着材、仮封材、仮着セメント練和実習）	・合着材、接着材、仮封材、仮着セメントの練和方法を説明できる。 ・合着材、接着材、仮封材、仮着セメントの練和ができる。	203	テキスト 「歯科診療補助論」 「歯科材料」	○		小林
27.	／	仮封材の取り扱い 実習	・仮封の目的を述べるができる。 ・窩洞歯に仮封ができる。	203	テキスト 「歯科診療補助論」 「歯科材料」 顎模型、ドライバー、ス ラークス（ミラー、ピンセット、探針）	○		小林
28.	／	矯正治療時の 診療補助1	・バンドの合着の手順と使用器材を説明できる。 ・バンドの撤去の手順と使用する器材を説明できる。 ・ダイレクトボンディングの手順と使用器材の説明ができる。		テキスト 「歯科矯正」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
29.	／	矯正治療時の 診療補助2	・アーチワイヤー・マルチブラケット装置の撤去の手順と使用器材が説明できる。 ・矯正装置装着前・装着時、矯正治療中・治療後の患者指導について説明できる。 ・口腔筋機能療法（MFT）の訓練について説明できる。		テキスト 「歯科矯正」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林
30.	／	歯科臨床と 診療補助のまとめ	・保存修復治療の流れと特徴を説明できる。 ・歯内療法時の流れと特徴を説明できる。 ・歯周外科治療の流れと特徴を説明できる。 ・補綴治療時の流れと特徴を説明できる。 ・口腔外科治療時の流れと特徴を説明できる。 ・歯科麻酔時の流れと特徴を説明できる。 ・矯正歯治療時の流れと特徴を説明できる。		テキスト 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			小林

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

2年後期 実習

＜専門分野＞ 科目名 歯科診療補助Ⅳ 講師名 小林郷子・下田哲子・

単位数 2

授業概要	・ 歯科診療の補助をおこなう上で必要な治療の手順、薬剤および器材の使用法を修得する。 ・ 歯科治療で用いられる主要歯科材料の性質、使用方法を修得する。 ・ 口腔写真撮影の目的と取り扱い方法を修得する。 ・ 履修上の注意 - 持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。 実習時は毎回身だしなみの確認を行なう。 全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新歯科衛生士教本：歯科診療補助論（第2版）、歯科機器、歯科材料、口腔外科・歯科麻酔、小児歯科、高齢者歯科（第2版）、障害者歯科、他
副教材	プリント（ファイリング整理して、テキストと同様に扱う。授業に必ず持参する。）
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予防衣	白衣	備考
1. /	印象材講義・実習	各種印象材の特徴を説明できる。	203	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」	○		小林
2. /	寒天・アルジネット 印象材講義・実習	寒天印象材とアルジネット印象材の特徴を説明できる。	203	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」	○		小林
3. /	アルジネット印象材 練和練習1	アルジネット印象材を適切に取り扱うことができる。	203	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」	○		小林
4. /	アルジネット印象材 練和練習2	アルジネット印象材を適切に取り扱うことができる。	203	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」	○		小林
5. /	アルジネット印象材 練和練習3	アルジネット印象材を適切に取り扱うことができる。	203	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」	○		小林
6 7	/	寒天・アルジネット印象材 取り扱い実習	203	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」顎模型、 ドライバー、窩洞歯 （Ⅰ級、Ⅱ級） ポケットティッシュ 顎模型清掃用ブラシ	○		小林
8. /	石膏講義	各種石膏の特徴を説明できる。	203	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」	○		小林
9 10	/	上下顎印象採得実習	203	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」	○		小林
11. /	石膏注入実習	マニキュア上で採得した印象体に石膏注入を実施できる。	203	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」	○		小林
12. /	印象採得相互実習 オリエンテーション	印象採得の手順とポイントを説明できる。 印象採得時の感染対策方法を説明できる。	203	テキスト「歯科診療補助論」 顎模型、配布プリント	○		小林

13	/	印象採得 相互実習 A	713 ネット印象材を用いて、上下顎の印象採得ができる。 印象採得時に患者への配慮ができる。	BO1	掲示参照		○	小林
14								
15	/	印象採得 相互実習 B	713 ネット印象材を用いて、上下顎の印象採得ができる。 印象採得時に患者への配慮ができる。	BO1	掲示参照		○	小林
16								
17	/	印象採得 相互実習 C	713 ネット印象材を用いて、上下顎の印象採得ができる。 印象採得時に患者への配慮ができる。	BO1	掲示参照		○	小林
18								
19.	/	シリコンゴム 印象材実習	713 ネット印象材の準備と練和が実施できる。	203	テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」	○		小林
20.	/	セメントの知識の まとめ	合着材、接着材、仮着材、仮封材の種類、特徴、用途を説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」			小林
21.	/	印象材の知識の まとめ	印象材の種類、特徴、用途を説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」			小林
22.	/	小児歯科治療時の 診療補助	小児歯科治療の手順を理解し、器具や材料の準備ができる。		テキスト「小児歯科」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			福間
23.	/	高齢者歯科治療時の 診療補助	特別な支援が必要な患者への対応を説明できる。		テキスト「高齢者歯科」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			福間
24.	/	障害者歯科治療時の 診療補助	特別な支援が必要な患者への対応を説明できる。		テキスト「障害者歯科」 「歯科診療補助論」 「歯科機器」			福間
25.	/	口腔写真撮影 講義	基本的な口腔写真の構図を説明できる。 口腔写真撮影用カメラの取り扱い方法を説明できる。	203	テキスト「歯科診療補助論」 顎模型（頬粘膜バックス）	○		下田
26.	/	口腔写真撮影 相互実習 A	口腔写真を撮影できる。 口腔写真撮影時の患者への対応ができる。	BO1	前回指示通り		○	下田
27.	/	口腔写真撮影 相互実習 B						下田
28.	/	消毒と滅菌復習	- 滅菌法について説明できる - 消毒法について説明できる - 消毒剤の取り扱いについて説明できる - 消毒液をつくるために必要な薬液量の計算ができる - 感染症と713について説明できる		テキスト「歯科診療補助論」 「歯科機器」 「微生物学」			下田
29.	/	感染予防対策復習	医療安全管理、感染予防対策、消毒滅菌法、患者対応について説明できる（歯科診療補助論の復習）					下田
30.	/	周術期における 歯科診療補助	周術期の口腔機能管理の概要を述べることができる。周術期における歯科衛生士の対応を説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「口腔外科・歯科麻酔」			福間

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

3年前期 実習

＜専門分野＞ 科目名 歯科診療補助Ⅴ 講師名 小林郷子・下田哲子 単位数 1

授業概要	・ 歯科臨床と診療補助に関する知識、技能および対応を修得する。 ・ ホワイトニング、暫間被覆冠に関する知識の理解を深め、器材の取り扱い方法を修得する。 ・ 履修上の注意 - 持ち物は教授要綱で確認、追加等については授業にて次回の指示をする。実習時は毎回身だしなみの確認を行なう。全時間出席が原則、欠席しないよう健康管理に気をつける。
教科書	最新歯科衛生士教本：歯科診療補助論、歯科材料、歯科機器、保存修復・歯内療法、歯周病学、歯科補綴、口腔外科・歯科麻酔、歯科矯正、小児歯科、障害者歯科
副教材	配布プリント（ファイリング整理して、テキストと同様に扱う。授業に必ず持参する。）
評価方法	期末試験（筆記試験）、提出物

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	予防衣	備考
1. /	歯科診療補助論 まとめ 1 （総論）	・ 歯科診療補助の業務内容と法的解釈を説明できる。 ・ 歯科診療所における患者対応を説明できる。 ・ 医療安全管理の概念を説明できる。 ・ 感染予防対策の概念とその対策を説明できる。 ・ 消毒・滅菌の定義とその方法を説明できる。 ・ 共同動作の概念を説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「歯科機器」		下田
2. /	歯科診療補助論 まとめ 2 （主要材料の種類と取り扱い）	・ 歯科用石膏の特徴、種類および用途を説明できる。 ・ 印象材の特徴、種類および用途を説明できる。 ・ 合着材・接着材の特徴、種類および用途を説明できる。 ・ 仮封材・仮着材の特徴、種類および用途を説明できる。 ・ フックスの特徴、種類および用途を説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「歯科材料」		小林
3. /	歯科診療補助論 まとめ 3 （保存修復）	・ 前準備に使用する器材とその取り扱いを説明できる。 ・ 切削用器具・器材とその取り扱いを説明できる。 ・ 直接修復の手順および使用する器材とその取り扱いを説明できる。 ・ 間接修復の手順および使用する器材とその取り扱いを説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「保存修復・歯内療法」 「歯科機器」		小林
4. /	歯科診療補助論 まとめ 4 （歯内療法）	・ 歯髄処置の手順および使用する器材とその取り扱いを説明できる。 ・ 根管処置の手順および使用する器材とその取り扱いを説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「保存修復・歯内療法」 「歯科機器」		小林

5. /	歯科診療補助論 まとめ 5 (歯周外科)	・歯周外科治療の手順および使用する器材とその取り扱いを説明できる。 ・歯周外科治療に使用する薬剤の種類と用途を説明できる。 ・歯周パックの種類とその取り扱いを説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「歯周病学」 「歯科機器」		小林
6. /	歯科診療補助論 まとめ 6 (補綴)	・各種検査の準備を説明できる。 ・印象採得に用いる器材と取り扱いを説明できる。 ・顎間関係の記録に用いる器材と取り扱いを説明できる。 ・プロビジョナルレストレーションに用いる器材と取り扱いを説明できる。 ・有床義歯装着時の器材と準備を説明できる。 ・クラウンブリッジ装着時の器材と準備を説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「歯科補綴」 「歯科機器」		小林
7. /	歯科診療補助論 まとめ 7 (口腔外科)	・口腔外科領域の主な疾患について説明できる。 ・局所麻酔に用いる器材と取り扱いを説明できる。 ・口腔外科小手術に用いる器材と取り扱いを説明できる。 ・止血処置に用いる器材と取り扱いを説明できる。 ・縫合処置に用いる器材と取り扱いを説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「口腔外科・歯科麻酔」 「歯科機器」		小林
8. /	歯科診療補助論 まとめ 8 (矯正)	・不正咬合を説明できる。 ・不正咬合の原因を説明できる。 ・矯正装置の種類を説明できる。 ・矯正歯科治療に用いる器材と取り扱いを説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「歯科矯正」 「歯科機器」		小林
9. /	TeC 製作 1	・暫間被覆冠の目的を説明できる。 ・暫間被覆冠製作のために必要な器材を選択できる。 ・暫間被覆冠の製作方法を説明できる。 ・既製冠を利用して右上中切歯の暫間被覆冠を作製できる。	203	顎模型、ねじ回し スクレーパーセット（ピソット、探針、ミラー）、ホケットフィッシュ、小筆、鉛筆、油性マジック（細）、マスク、ゴーグル	○	下田
10. /	TeC 製作 2					

11. /	歯のホワイトニング	・歯のホワイトニングについて患者へ適切な説明ができる。 ・歯のホワイトニングにおける注意点が説明できる。 ・歯のホワイトニングにおける術式が説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「保存修復・歯内療法」		下田
12. /	危険予知訓練	・インシデントを説明できる。 ・アクシデントを説明できる。 ・KYT（危険予知訓練）を実施し、診療に潜む危険を予測できる。 ・KYT（危険予知訓練）を実施し診療中の危険防止対策を説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」		小林
13. /	医療安全のまとめ	・感染症の経路、スタンダードプレコーションを説明できる。 ・感染予防対策における歯科衛生士の役割を説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」		下田
14. /	歯科診療補助論 まとめ 9 (小児・高齢者 障害者・エックス線)	・小児の心身の発育、歯列・咬合の発育を説明できる。 ・小児の咬合誘導を説明できる。 ・小児歯科治療に用いる器材と取り扱いを説明できる。 ・高齢者の加齢による変化を説明できる。 ・高齢者に多い疾患の概要を説明できる。 ・高齢者の摂食嚥下障害とスクリーニング検査について説明できる。 ・高齢者歯科治療の特徴を説明できる。 ・歯科医療で特別な支援が必要な疾患を説明できる。 ・障害者の歯科医療と行動調整を説明できる。 ・障害者歯科治療の特徴を説明できる。 ・エックス線写真撮影機器の取り扱いを説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「小児歯科」 「高齢者歯科」 「障害者歯科」 「歯科機器」		下田
15. /	歯科診療補助論 まとめ 10	・保存修復時に用いる器材と取り扱いを説明できる。 ・歯内療法時に用いる器材と取り扱いを説明できる。 ・歯周外科治療に用いる器材と取り扱いが説明できる。 ・補綴歯科治療に用いる器材と取り扱いを説明できる。 ・口腔外科治療に用いる器材と取り扱いを説明できる。 ・矯正歯科治療に用いる器材と取り扱いを説明できる。		テキスト「歯科診療補助論」 「歯科機器」		小林

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

1 年後期 講義

＜専門分野＞ 科目名 臨床検査法 講師名 曽根伸治 ・ 中井未来 単位数 1

授業概要	身体の異常や症状を伴わない病気を生体あるいは検体検査から知ること、診断の確定や治療方針の決定に利用される臨床検査を理解する。
教科書	「最新歯科衛生士教本 臨床検査」
副教材	
評価方法	期末試験（筆記試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. / 45 分	序論 臨床検査の実際	臨床検査が病院などでどのようなにおこなわれているか説明できる。	曽根
2. /	1 章/臨床検査とは 2 章/生体検査 1.体温 2.脈拍	臨床検査の種類と概要および画像検査について説明できる。	曽根
3. /	2 章/生体検査 3.血圧測定(実習の講義) 4.生理機能検査	体温、脈拍、血圧測定ができる 生理機能検査（心電図、呼吸機能、腹部エコー、脳波）の概要が説明できる。	曽根
4. /	3 章/検体検査 1.採血・血液検査	採血方法および検体の取り扱いを理解して、説明できる。 血球数カウントなどの血液検査の基本を理解して、説明できる。	中井
5. /	3 章/検体検査 2.血液凝固・線溶系	血栓止血検査の概要を理解して、説明できる。	中井
6. /	3 章/検体検査 3.生化学検査	肝機能、腎機能、糖代謝の検査を理解して、説明できる。	中井
7. /	3 章/検体検査 4.免疫・血清	炎症、ウイルス感染症検査、アレルギーおよび自己免疫疾患検査を理解して、説明できる。	曽根
8. /	3 章/検体検査 5.血液型検査(実習の講義) 尿一般検査(実習)	血液型検査ができる。 輸血に必要な不規則抗体や交差試験を理解して、説明できる。 尿一般検査が実施でき、その結果を解釈できる。	曽根

3 年前期

＜専門分野＞ 科目名 医療保険事務 講師名 小松優子 単位数 1

授業概要	保険診療の概念を理解し、医療保険制度の体系について習得する。 歯科衛生士が関わる歯科診療報酬について習得する。 ⇒保険証、電卓を持参（スマートフォンは 不可）
教科書	最新 歯科衛生士教本 歯・健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度第3版
副教材	配布プリント
評価方法	期末テスト

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	持ち物
1. 5 / 7	医療保険制度①	日本の医療保険制度について説明できる。 保険証の種類について説明できる。	保険証
2. 5 / 14	医療保険制度②	//	保険証
3. 5 / 21	保険診療の基礎①	カルテの作成ができる。 一部負担金の計算ができる。	電卓
4. 5 / 28	保険診療の基礎②	初診料 再診料について説明できる。 レセプト（診療報酬請求書）を記入できる。	電卓
5. 6 / 4	歯周治療①	保険診療における歯周治療の算定方法を説明できる。	電卓
6. 6 / 11	歯周治療②	//	電卓
7. 6 / 18	初期う蝕処置 訪問診療 周術期診療	保険診療におけるカリエス処置、訪問診療、周術期診療の算定方法を説明できる。	電卓
8. 6 / 25	まとめ（45分）	授業のまとめ。期末試験についての説明。	

1 年前期 実習

＜専門分野＞ 科目名 臨地実習Ⅰ 講師名 各臨地実習指導者 単位数 前・後期 1

授業概要	・学内で学ぶ知識や技術が、臨床でどのように応用されているかを理解する。 ・歯科衛生士の役割を学ぶ。 －履修上の注意点－ 1. 以下のような行為があった場合は学則第 22 条に基づき懲戒する。 ・臨地実習ノートの記録紙の検印や署名に不正があった場合 ・臨地実習ノートの記録内容に偽造があった場合 ・その他不正とみられる行為があった場合 2. 感染対策上、行動自粛がみられない場合は、外部での実習が中止となることがある。
教科書	なし
副教材	プリント
評価方法	出席状況、実習到達度、提出物で評価する。 欠席・遅刻・早退については補充しなければ単位認定されないので留意する。

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	備考
1. 6／3	全国小学生 歯みがき大会見学	「歯と口の健康週間」協賛 行事、「全国小学生歯みがき 大会」を見学し、歯科保健 周知活動および歯科保健学習 について説明できる。		手鏡、 筆記用具	小林・狩野
2. /	臨床見学実習Ⅰ カインテーション①	・臨床見学実習の実施要領を 説明できる。 ・患者に不快感を与えない 身だしなみができる。		週間日程表、 教授要綱	小林・狩野
3. /	臨床見学実習Ⅰ カインテーション②			プリント、週間 日程表、身だし なみを整える 準備	小林・狩野
4. 1-1 6／14 1-2 6／15	臨床見学実習Ⅰ	・歯科衛生士の役割を述べる。 ・医療人としてのマナーと心構 えを述べることができる。 ・患者の気持ちを考えた行動が できる。		カインテーション資料 参照	指導歯科医師 指導歯科衛生士
5. 1-1 6／16 1-2 6／16	臨床見学実習Ⅰ 報告会	・見学実習で学んだことを情報 交換し、評価する。 ・見学実習を通して、今後の 課題を見出す。		見学実習レポ ート	小林・狩野
6. 7／7	(株) サンスター オンラインセミナー	・歯科企業で働く歯科衛生士の 役割を知る。 ・予防器材の種類と活用方法を 説明できる。		配布資料 歯ブラシ カラーテスター うがい用コップ 手鏡 ティッシュ	指導歯科衛生士

2年前期 実習

＜専門分野＞ 科目名 臨地実習Ⅱ 講師名 遠藤直美 単位数 前・後期4

授業概要	幼児期後期の集団および個別の歯科保健指導をおこなう。 履修上の注意点：感染対策上、行動自粛がみられない場合は、外部での実習が中止となることがある。
教科書	なし
副教材	プリント
評価方法	出席状況、実習到達度、提出物で評価する。 欠席・遅刻・早退については補充しなければ単位認定されないので留意する。

指導計画

2-1 実習の場：北区立西ヶ原保育園

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. 6／4	保育園 歯科保健指導実習	幼児期後期の集団および個別の歯科保健指導において、その特徴と方法を説明できる。	フィードバックおよび課題を含め8時間

指導計画

2-2 実習の場：豊島区立西巣鴨第三保育園

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. 6／1	保育園 歯科保健指導実習	幼児期後期の集団および個別の歯科保健指導において、その特徴と方法を説明できる。	フィードバックおよび課題を含め8時間

3年前期 実習

＜専門分野＞ 科目名 臨地実習 講師名 各臨地実習指導者 単位数 前・後期 15

授業概要	各実習のガイダンスの通り 履修上の注意点ー１．以下のような行為があった場合は学則第 22 条に基づき懲戒する ・臨地実習ノートの記録紙の検印や署名に不正があった場合 ・臨地実習ノートの記録内容に偽造があった場合 ・その他不正とみられる行為があった場合 ２．感染対策上、行動自粛がみられない場合は、外部での実習が中止となることがある
教科書	必要に応じて準備
副教材	臨地実習ノート、配布プリント 他
評価方法	出席状況、実習到達度、提出物で評価する 欠席・遅刻・早退については補充しなければ単位認定されないので留意する

指導計画

月／日	項目	到達目標	教室	持ち物	備考
4／9	臨地実習ガイダンス	・Ⅰ期臨床実習について	各クラス	臨地実習ノート	星・下田 他
4／15	障害者、有病者歯科診療施設実習ガイダンス	障害者、有病者の歯科診療施設実習について	各クラス	臨地実習ノート	星・下田 他
4／12 ～ 7／16	Ⅰ期臨床実習 (一般歯科診療所) (該当者のみ：デ・テルム介護予防口腔ケア実習)			ガイダンス 資料参照	指導歯科医師 指導歯科衛生士 (1日8時間)
／	HR (臨床実習ガイダンス)	・臨床実習状況 ・臨地実習ノートの記入	各クラス	臨地実習ノート	星・下田 他
／	HR (臨床実習ガイダンス)	・経過観察(実技)実習状況報告 ・レポートについて	各クラス	臨地実習ノート	星・下田 他
	障害者、有病者歯科診療施設実習	*実習日は学生により異なる (6日間)		ガイダンス 資料参照	指導歯科医師 指導歯科衛生士 (1日8時間)
／	HR (臨床実習ガイダンス)	・Ⅰ期臨床実習終了にあたり ・補充実習について	各クラス	臨地実習ノート	星・下田 他
7／19	Ⅰ期臨床実習まとめ	・Ⅰ期院内感染防止対策に関する考察 ・Ⅰ期臨地実習出席の確認 他 ・Ⅰ期臨床実習を振り返り ・補充実習に関して	各クラス	臨地実習ノート	星・下田 他

7/20	Ⅱ期臨床実習オリエンテーション①	・臨地実習ロケーションの確認 ・Ⅱ期臨床実習について ・Ⅱ期自己紹介用紙配布 ・Ⅱ期臨床実習医院発表 ・Ⅱ期臨床実習に向けて ・（Ⅱ期）臨地実習ノートの記入について ・Ⅱ期臨床実習の交通調査および定期券申請	各クラス	臨地実習ノート	星・下田 他
	Ⅱ期臨床実習医院へ開始挨拶	/（ ）～ /（ ）までに Ⅱ期臨床実習医院へ挨拶 （先方の都合に合わせる） ・「登院時間」「出入口」 「ロッカーの場所」などを確認 ・自己紹介用紙持参			
8/24	Ⅱ期臨床実習オリエンテーション②	・Ⅱ期臨床実習について	各クラス	臨地実習ノート	星・下田 他
	矯正歯科実習オリエンテーション	・矯正歯科実習についての確認			

*臨地実習関連 HR は上記以外にも適宜実施する。

*オリエンテーションおよび HR には毎回必ず臨地実習ノートを持参する。

1, 2 年次の記録は臨地実習ノートから外さない。

1 年前期 講義・演習

＜選択必修＞ 科目名 総合研究Ⅰ 講師名 儀我有子

単位数 1

授業概要	・歯科衛生士による研究の意義を理解し、興味を持ったテーマについて調べ、まとめる。 ・歯科衛生士が研究を行なう上で必要なことを習得する。 ・他者の調べ学習を聴くことで（グループワーク）知識を共有する。 ＜履修上の注意点＞ ・授業の目的を理解し、自ら目標を立て、意欲的に取り組む。 ・小研究は計画的に進める。 ・「情報コミュニケーションⅠ」同様、課題作品は、校内ネットワークサーバー（Zドライブ）の各自フォルダ内と USB メモリに保存する。（USB メモリは各自で用意し持参する）
教科書	なし
副教材	配布する「冊子」を教科書同様の扱いとする。毎回持参する。
評価方法	小研究レポート作成修了、データの保存状態 提出物（遅れ：1 日 1 点減点） 出席状況（欠課：1 時間 2 点減点、遅刻早退：1 回 1 点減点）で評価

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	備考
1. 5／11	総合研究Ⅰ オリエンテーション	・研究活動の意義を説明できる。 ・総合研究Ⅰの授業の概要を知る。	TAKI	45分
2. 5／17	研究活動 の基本	・情報収集法を説明できる。 ・図書の利用法やレポートの記入方法のルールを説明できる。 ・小研究テーマをイメージできる。	TAKI	
3. 5／24	研究活動1	・小研究テーマを考える。 ・小研究テーマに沿った情報収集をする。 ・小研究レポートの構成と記述の仕方を知る。	TAKI	
4. 6／23	研究活動2	計画書に沿って情報を整理する。	TAKI	計画書提出 6/21
5. 6／30	研究活動3	Word を使用し、小研究レポートを作成する。	TAKI	
6. 7／ 5	研究活動4	小研究レポートを作成する。	TAKI	
7. 9／13	研究活動5	小研究レポートを作成する。	TAKI	
8. 9／15	研究活動6	・小研究レポートを持ち寄り、収集した情報の知識をグループにて共有し、視野を広げる。 ・小研究の自己評価をする。	TAKI	8回終了後、 授業時間内に レポート回収

●授業は「情報コミュニケーションⅠ」と連携の上、進める。

担当教員は他校での教職経験や5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

2年後期 講義・演習

＜選択必修＞ 科目名 総合研究Ⅱ 講師名 儀我有子

単位数 2

授業概要	・歯科衛生士による研究の意義を理解し、1年次よりさらに興味を持ったテーマについて深く調べてまとめ、発表を行なう。 ・授業の目的を理解し、自ら目標を立て、意欲的に取り組む。 ・課題作品は、校内ネットワークサーバーの各自フォルダ内とUSBメモリに保存する。
教科書	配布冊子を教科書同様の扱いとする。
副教材	なし
評価方法	小研究レポートおよび発表資料作成と発表の修了、データの保存状態、提出物（遅れ：1日1点減点）、出席状況（欠課：1時間2点減点、遅刻早退：1回1点減点）で評価する。

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. /	小研究活動の基本	・総合研究Ⅱの授業概要を知る。 ・復習-情報収集法、図書の利用法、レポートの記入方法のルールを説明できる。 ・テーマをイメージできる。 ・計画書の作成方法を知る。 ・レポート作成および発表に必要なファイルを作成する。	TAKI USBメモリ 冊子
2. /	小研究活動1	・テーマに関する情報を収集する。 ・計画書を作成する。	TAKI USBメモリ 冊子
3. /	小研究活動2	・テーマに関する情報を収集する。 ・計画書を作成する。	TAKI USBメモリ 冊子
4. /	小研究活動3	・テーマに関する情報を収集する。 ・計画書を仕上げる。	TAKI USBメモリ 冊子
5. /	小研究活動4	・テーマに関する情報を収集する。 ・レポートを作成する。	TAKI USBメモリ 冊子
6. /	小研究活動5	レポートを作成する。	TAKI USBメモリ 冊子
7. /	小研究活動6	レポートを作成する。	TAKI USBメモリ 冊子
8. /	小研究活動7	レポートを作成する。	TAKI USBメモリ 冊子
9. /	小研究活動8	・レポートを作成する。 ・発表資料（パワーポイント）を作成する。 ・発表資料（原稿）を作成する。	TAKI USBメモリ 冊子
10. /	小研究活動9	・レポートを作成する。 ・発表資料（パワーポイント）を作成する。 ・発表資料（原稿）を作成する。	TAKI USBメモリ 冊子
11. /	小研究活動10	・レポートを作成する。 ・発表資料（パワーポイント）を作成する。 ・発表資料（原稿）を作成する。	TAKI USBメモリ 冊子
12. /	小研究活動11	発表に向けてレポート、原稿、パワーポイントなどを整える。	TAKI USBメモリ 冊子

13. /	プレゼンテーションA	小研究結果を発表する。 発表を聴講する。	201・203 202・203
14. /	プレゼンテーションB	小研究結果を発表する。 発表を聴講する。	201・203 202・203
15. /	プレゼンテーションC	小研究結果を発表する。 発表を聴講する。	201・203 202・203

担当教員は他校での教職経験や5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

3年前期 講義・演習

<選択必修> 科目名 総合研究Ⅲ 講師名 儀我有子 単位数 前・後期 1

授業概要	・1,2 年時の歯科保健指導・歯科予防処置の実習記録を基に、自らの口腔保健行動を振り返り、分析し、今後に活かせる目標と計画を立て、レポートとしてまとめる。 ・グループワークにより、他者への伝え方を学び、他者の話を聴くことで知識を共有する。 ・履修上の注意 - 授業の目的を理解し、自ら目標を立て、計画的に取り組む。
教科書	
副教材	配布する「冊子」を教科書同様の扱いとする。毎回持参する。
評価方法	後期に評価を出す。 事例研究発表資料作成およびグループワークの修了、提出物（遅れ：1 日 1 点減点）、出席状況（欠課：1 時間 2 点減点、遅刻早退：1 回 1 点減点）で評価

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	教室	持ち物
1. 5／20	オリエンテーション	・3 年次の総合研究授業計画を知る。 ・総合研究の概要を述べることができる。		1,2 年時の実習記録全て USB メモリ
2. 5／27	準備 1	予防と保健行動の計画作成のために情報収集ができる。	TAKI	1,2 年時の実習記録全て USB メモリ 「事例研究発表」の冊子
3. 6／ 3	準備 2	収集した情報の整理ができる。		
4. 6／10	準備 3	整理した情報を分析し、口腔の保健行動における問題を明確にできる。		
5. 6／25	準備 4	目標に合わせた予防方法や保健行動を計画することができる。		
6. 7／ 1	準備 5	レポート作成ができる。		
7. 7／ 8	準備 6	資料の最終確認を行い、レポートとしてまとめ、グループワークに備えた知識を述べることができる。		
8. 7／15	グループワーク	・グループワークでレポートの発表ができる。 ・作成したレポートの自己評価ができる。 ・他者の発表について感想を述べることができる。		

担当教員は他校での教職経験や5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

3年後期 講義・演習

＜選択必修＞ 科目名 総合研究Ⅲ 講師名 佐々木ひろみ・他

単位数 前・後期 1

授業概要	臨床歯科医学科目研究として学び得たことの理解を深める為に、学生が主体的に臨床歯科医学科目の要点をまとめ、発表を行なう。
教科書	なし
副教材	
評価方法	提出物（遅れ：1日1点減点）、出席状況（欠課：1時間2点減点、遅刻早退：1回1点減点）で評価

指導計画

回・月日	項目	到達目標	教室	持ち物	備考
1. /	臨床歯科医学科目研究1	- 学生主体の演習について知る。 - グループで担当する臨床歯科医学科目の演習立案ができる。（方法、資源） - 演習の準備をする。 （担当する科目は事前に掲示にて周知）	TAKI		
2. /	臨床歯科医学科目研究2	演習の準備をする。	TAKI	USBメモリ 教科書 必要資料	
3. /	臨床歯科医学科目研究3	演習の準備をする。	TAKI	USBメモリ 教科書 必要資料	
4. /	臨床歯科医学科目研究4	演習の準備をする。	TAKI	USBメモリ 教科書 必要資料	
5. /	臨床歯科医学科目研究発表	研究結果を発表する。 研究発表を聴き、参加する。		USBメモリ 教科書 必要資料	
6. /	臨床歯科医学科目研究発表	研究結果を発表する。 研究発表を聴き、参加する。		USBメモリ 教科書 必要資料	
7. /	卒後の研究活動について	卒後の研究活動における留意点を知る。 歯科衛生士にとっての研究活動の意義を説明できる。			下田

担当教員は5年以上の臨床経験により、実務に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。

2年前期 講義

＜選択必修＞科目名 口腔リハビリテーション論 講師名 中根綾子、須佐千明 単位数 1

授業概要	日本は超高齢社会を迎えており、高齢者の誤嚥性肺炎や窒息が問題となっている。摂食嚥下リハビリテーションは、口腔衛生のプロとしての歯科衛生士が重要な役割を果たすと考えられる。また、摂食嚥下訓練においても歯科衛生士の活躍が期待されている。講義を通じて、摂食嚥下のメカニズムを学び、リハビリテーションの概念や歯科衛生士に必要な基礎的知識を習得する。
教科書	最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション
副教材	プリント
評価方法	筆記試験

授業計画

回・月/日	項目	到達目標	備考
1. 5/20	摂食嚥下とは	摂食嚥下の5期やメカニズムを説明できる	中根
2. 5/20	摂食嚥下障害 スクリーニング	摂食嚥下障害のスクリーニング方法を説明できる	中根
7. 5/27	摂食嚥下障害の訓練（間接訓練）	多様な間接訓練を説明できる	中根
8. 5/27	摂食嚥下障害の訓練（直接訓練）	多様な直接訓練および、障害の概念、スキルの概念を説明できる	中根
3. 6/3	摂食嚥下障害の特徴と問題点	摂食嚥下とその障害を説明できる	須佐
4. 6/3	摂食嚥下障害の診察	摂食嚥下障害の診察方法を説明できる	須佐
5. 6/10	摂食嚥下障害への対応（入院患者）	V Fの結果を理解し、入院患者への対応を説明できる	須佐
6. 6/10	摂食嚥下障害への対応（往診患者）	V Eの結果を理解し、往診患者への対応が説明できる	須佐 45分

2年後期 演習

＜選択必修＞ 科目名 口腔リハビリテーション技術 講師名 堀口由紀子 単位数 2

授業概要	さまざまな疾患・身体状況・精神状況・生活環境を把握し、口腔衛生管理・口腔機能管理の両面からのアプローチは口腔リハビリテーションに重要である。口腔リハビリテーションの知識と技術を習得する。摂食嚥下障害における食指導・食支援について習得する。
教科書	「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版」
副教材	「最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版」
評価方法	期末試験（筆記試験）

授業計画

回・月／日	項目	到達目標	各自準備	学校準備
1. /	口腔機能について	- 摂食嚥下を体験し、口腔機能について理解し説明できる。 - オーラルフレイル・口腔機能低下症について説明できる。	水入りペットボトル コップ 手鏡 煎餅1枚	
2. /	口腔のケアの概要	- 口腔衛生管理・口腔機能管理について説明できる。 - 多職種連携について説明できる - 口腔のケアプロセスの流れについて説明できる		
3. /	各疾病における口腔のケア	- 周術期等口腔機能管理について説明できる。 - 有病者の口腔関連症状を理解し、口腔のケアの留意点について説明できる。		
4. /	さまざまな状況における口腔のケア	さまざまな状況での口腔のケア方法について説明できる		
5. /	口腔のケア実習1	高齢者や麻痺の疑似体験を通じて、口腔のケアの留意点について説明できる。	ミニトレ（小皿、アルミカップ等） 水入りペットボトル 計量カップ 水50mlを入れたコップ コップ 紙コップ スプーン 手鏡 ティッシュペーパー 浴用タオル ＊うがい吐き出し容器 ＊牛乳パックの下10cm残して上をカットしたもの	タフト歯ブラシ スポンジブラシ グローブ トロミ剤 保湿ジェル ガーゼ
6. /	口腔のケア実習2	口腔内拡張・唾液腺マッサージ・スポンジブラシ・保湿剤・舌ケア等、基本的な口腔のケア方法を習得し、実施できる。		
7. /	口腔のケア実習3	- 吸引方法について説明できる。 - ベッド上での口腔のケア方法を習得し、実施できる。 - 義歯の着脱・取り扱いについて説明できる - 症例に合わせたケア用品を類別できる	水入りペットボトル	

8. /	実際の口腔のケア	• 実際の症例から課題を抽出できる		
9. /	間接訓練実習 1	• 摂食嚥下訓練の概要について説明できる。 • 筋刺激訓練法を習得し、説明できる。	手鏡	グローブ ガーゼ
10. /	間接訓練実習 2	• 嚥下促進訓練を習得し、説明できる。 • 声門閉鎖訓練を習得し、説明できる。 • 呼吸訓練を習得し、説明できる。 • 食道入口部開大訓練について説明できる。		グローブ
11. /	直接訓練実習 1	• 直接訓練の基本姿勢が説明できる。 • 嚥下代償法を習得し、説明できる。	ヨーグルト ゼリー スプーン	トロミ剤
12. /	直接訓練実習 2	• 摂食嚥下機能に合わせた食事介助を習得し、説明できる。 • とろみ調整食品の扱いについて説明できる。	計量カップ 200ml のお茶を入れた コップ	
13. /	成人の摂食嚥下障害における食指導・食支援	• 成人の摂食嚥下障害における食指導・食支援について説明できる。		
14. /	発達期の摂食嚥下機能と摂食嚥下障害	• 発達期の摂食嚥下機能・摂食嚥下障害について説明できる。		
15. /	症例検討 まとめ	• 事例検討を行い、ケアプランを作成することができる。		

1 年前期 講義

＜選択必修＞ 科目名 レクリエーション論 講師名 池田雅彦 単位数 1

一 般 目 標	レクリエーションとは何か。レクリエーションサービスの考え方とレクリエーション支援の構造を理解し、個人・集団での楽しさの本質を模擬的体験学習（学習）の中で、生活のレクリエーション化という視点での『生きがいづくり』を考える。
教 科 書	なし
副 教 材	ワークシート、プリント、映像教材など
評 価 方 法	ワークシートおよび試験にて評価する
履 修 上 の 注 意 点	・対面授業では、できる限り相互の関係づくり中心に実習を行う。 ・オンライン授業では、映像教材およびイメージトレーニング法を活用し、学習効果を高めていく。

指導計画

回・月／日	項目	到達目標	備考
1. 4／21	レクリエーション概論①	レクリエーションとは何か。アイスブレイクの意味と効果について説明できる。	
2. 4／28	レクリエーション概論②	自己理解と他者理解について説明できるようにする。	
3. 5／11	レクリエーション財(材)の理解①	レク材の持つ効果の「楽しさの本質」について説明できるようにする。	
4. 5／18	レクリエーション財(材)の理解②	レク材の持つ効果の「楽しさの本質」について説明できるようにする。	
5. 5／25	レクリエーション支援の構造について理解する	福祉におけるレクリエーション支援の構造について理解し、「生きがいとは何か」について考えていく。	
6. 6／ 2	福祉レクゲームの分析①	福祉レクリエーションゲームの実際からそのゲームのねらいや楽しさ、安全面の配慮等の分析・評価ができるようにする。	
7. 6／ 9	福祉レクゲームの分析②	福祉レクリエーションゲームの実際からそのゲームのねらいや楽しさ、安全面の配慮等の分析・評価ができるようにする。	
8. 6／22	レクリエーション論のまとめ	自分のレクリエーションに対する考え方を説明できる。	45 分授業

＜授業目的＞

歯科衛生士が歯科保健指導を行なう上で高いコミュニケーション能力が求められている。
個別・集団・幅広い年齢層・どんな場面でも対応できるよう、ひとつの手段としてレクリエーションのスキルを体験を通じて習得する。

3年後期 演習

＜選択必修＞ 科目名 包括授業 講師名 科目講師 単位数 8単位（120時間）

授業概要	専門基礎分野科目と専門分野科目の関連性を自ら発見し、臨床での体験も踏まえて歯科衛生士に必要な知識を改めて認識し、臨床に有用な知識・技術へと着実強固に発展させる。
教科書	各科目教本
副教材	これまでに各科目で配布されたプリントおよび講義ノート
評価方法	出席状況

指導計画

科目	講師	時間数
解剖学／口腔解剖学	水野潤造	6
組織発生学	前田信吾	2
生理・口腔生理学	田崎雅和	6
病理学／口腔病理学	浅野正岳	4
微生物学	落合邦康	6
栄養学／食生活指導	高野由美子	4
生化学	田中秀樹	4
薬理学	李 昌一	6
衛生・公衆衛生学／予防歯科学	戸田真司	8
地域歯科保健活動論／保健情報統計学	工藤貴之	8
衛生行政	酒寄孝治	2
社会福祉	浅見雅人	2
保存修復学		2
歯内療法学	前田朋己	2
歯周療法学	水谷幸嗣	2
歯科補綴学	高草木謙介	4
口腔外科学	小牧基浩	2
小児歯科学		2
歯科矯正学	鈴木聖一	4
高齢者歯科学	高城大輔	4
障害者歯科学	宮城 敦	2
歯科麻酔・全身管理・救急処置	今泉うの	2
口腔リハビリテーション	堀口由紀子	4
歯科予防処置論／歯科保健指導論		8
専門基礎分野科目まとめ	李 昌一	2
専門分野科目まとめ	戸田真司	2
確認テスト		20

計	120
---	-----